

(2018)

MAU FACTBOOK

02	INTRODUCTION
06	VISION ABOUT MUSASHINO ART UNIVERSITY
10	HISTORY
12	ORGANIZATION CHART
14	STUDENTS
15	EXAMINATION RESULTS
18	ADMISSION FEE AND TUITION
20	SCHOLARSHIPS
22	CAREER SUPPORT
25	TEACHING CAREERS
26	INTERNATIONAL RELATIONS
29	RESEARCH AND COLLABORATION
33	STUDENT LIFE
35	MUSEUM & LIBRARY
36	FACILITIES
38	FACULTY AND STAFF ANNUAL REPORT FINANCIAL SUMMARY
53	ACCESS



MUSASHINO ART UNIVERSITY FACTBOOK

CONTENTS

02	はじめに	事業の概要
06	武蔵野美術大学のビジョン	42 2018(平成30)年度事業報告
		43 教育研究組織の改編等
	学校法人の概要	教育力の強化
10	沿革	教育環境充実に向けた キャンパス整備
12	組織図	美術館・図書館機能の充実
14	学生数	45 学生支援の充実・強化
15	入試結果	研究支援・社会連携推進、 美術教育の普及、美術文化の振興
18	学生納付金	46 広報・IR活動の強化
20	奨学金	組織力の強化
22	進路・就職	47 その他の主な取組
25	教職関連	
26	国際交流	
29	研究・社会貢献	財務の概要
33	学生生活	50 経年比較
35	美術館・図書館	52 主な財務比率比較
36	施設・組織	
38	教職員・役員	53 交通アクセス

学校法人武蔵野美術大学 2018年度ファクトブック

本冊子の対象期間は2018年4月1日～2019年3月31日です。一部、左記期間以外の事業についても掲載しています。

学校法人武蔵野美術大学 理事長
天坊昭彦(てんぼう・あきひこ)

1939年生まれ。1964年東京大学経済学部経営学科卒業。同年出光興産株式会社入社。同社常務取締役、専務取締役を経て、2002年に同社代表取締役社長。石油連盟会長、同社代表取締役会長を歴任し、現在同社顧問。2010年より学校法人武蔵野美術大学理事、評議員を経て、2012年理事長に就任。



武蔵野美術大学は、1929年10月に開校した帝国美術学校を前身とし、第二次世界大戦後の1947年、帝国美術学校から造型美術学園へ校名変更し、1957年には学校法人武蔵野美術学校として認可を受け、1962年、学校法人武蔵野美術大学と改称して現在に至ります。

創立以来、本学は「教養を有する美術家養成」、「真に人間的自由に達するような美術教育」を理念とし、教育・研究活動を展開してまいりました。卒業生は現在までに約6万8千人を数え、校友の活躍の場も美術やデザインの専門領域のみならず、一般企業の総合職などに広がりを見せております。これは、本学の教育が創造活動を通して技術力を磨くと同時に、コミュニケーション能力や物事の本質を見極める洞察力を高めていることの表れであり、その意味で本学は今、社会が求めている人材の宝庫と言っても過言ではないと自負しています。

本年、2019年は前身である帝国美術学校の創立から90周年を迎える節目の年です。來たる100周年に向けて本学の来し方を振り返るとともに、わが武蔵野美術大学で脈々と受け継がれている教育の本質を、さらに価値のあるものにしたいと決意を新たにしています。在学生、教職員、校友の皆様、そして本学と関わりのある皆様方の力強いご支援を、これからもお願ひいたします。

学校法人武蔵野美術大学 理事長
天坊昭彦

武蔵野美術大学 学長
長澤忠徳(ながさわ・ただのり)

1953年生まれ。1978年武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業。1981年Royal College of Art, London修士課程修了、MA(RCA)取得。1999年武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科教授に就任し、2015年に学長、学校法人武蔵野美術大学理事に就任。有限会社長澤忠徳事務所代表取締役。2016年Royal College of Artより、日本人で初めてシニアフェローの称号を授与される。



少子高齢化に伴う社会構造の変化、高度情報化による業態の変容、さらに初等・中等教育における図画工作科・美術科の時間数削減の影響と、平成から令和に変わった本年も、美術大学を取り巻く状況は厳しさを増しています。しかし、創立100周年を迎えるための重要な改革期にある武蔵野美術大学は、2014年に第1次中長期計画を策定し、「美術、デザインを専門とする大学として高い教育・研究力を發揮し、専門性と豊かな教養を備えた人材を育成するとともに、学術・文化を世界に発信する拠点としての地位を確立すること」を目標に、国内はもとより国際社会に貢献する大学として、教育環境のさらなる整備を教職員一丸となって推進しています。

その一環として、本年4月には伝統ある造形学部、大学院造形研究科に加えて、新たに造形構想学部と大学院造形構想研究科を設置し、東京都新宿区に市ヶ谷キャンパスを開設しました。今後、鷺の台キャンパスと市ヶ谷キャンパスという二つの拠点が連携し、従来の美術大学の枠を超えた新たな人材育成に取り組むことで、本学の教育が90年の長きにわたり実践してきた、答えが用意されていない未知の諸困難に創造的解決をつくり上げる柔らかな知性の開拓の一層の充実を図りたいと考えています。

本冊子で、本学の教育・研究、国際交流、社会貢献等の取り組みや施策の現状、財務情報を皆様にご報告することで、本学の教育・研究活動の実態をご理解いただき、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

武蔵野美術大学 学長
長澤忠徳



武蔵野美術大学の戦略的構想～創立100周年に向けて～

今後急速に進行する18歳人口の減少、少子高齢化に伴う社会構造の変化、IT化による業態の変容、加えて初等・中等教育における図画工作科・美術科の時間数削減の影響等、美術大学を取り巻く厳しい状況のなか、本法人の中長期計画では、将来構想・ビジョン実現のために、「国際化の進展を特色とする教育組織の開設等」、「都心型キャンパスの開設」を戦略的構想として掲げました。そして創立90周年となる2019年、新たな教育組織と都心キャンパスを開設し、来たる100周年に向けた重要な改革のスタートとして歩みを進めています。



来るる100周年に向けた改革①

新たな教育組織の開設～新学部・新研究科開設に伴う2学部制の着実な運営～

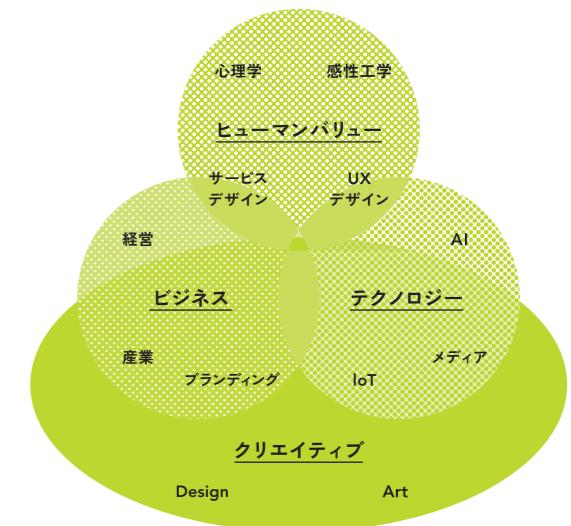
教育組織については2019年4月、造形構想学部及び大学院造形構想研究科を設置しました。美術を総合的な人間形成をもって成るものと考える本学伝統の教育理念に基づく造形教育によって身に付けた力を基盤としつつ、新学部・新研究科では、そうした総合的な力を、美術・デザインの領域に限らず、実社会のさまざまな場で発揮し、社会問題の解決や新たな価値を創出できるよう柔軟な発想力や構想力を有する人材、すなわち創造的思考力をもって社会的イノベーションに寄与する人材として育成することを目指します。

造形構想学部にはクリエイティビティイノベーション学科を新設し、造形学部から映像学科を移設します。また、造形構想研究科には造形構想専攻を設置し、新設のクリエイティビリーダーシップコースと造形研究科から移設される映像・写真コースを設置します。映像学科及び映像・写真コースについては、同学科・コースにおける発足時からの理念を再確認し、新学部・研究科として位置づけ、教育内容の拡張によるさらなる充実と発展を期していきます。

新学科・新研究科の学び

クリエイティビティイノベーション学科では、現代社会に潜むさまざまな課題を解決の方向に導くイノベーションを生み出すため、既存の考え方によらず、自ら課題を発見し、解決策を導き出すための教育を展開します。基盤となるのは、本学独自の造形教育・教養教育で培われる思考力を中心とした総合的な力——「創造的思考力」です。この「創造的思考力」を、ビジネス、テクノロジー、ヒューマンパフォーマンスの各分野の融合において強く発揮し、現代社会における諸問題の解決に貢献し、新たな価値の創出を行う柔軟な発想や構想力を有する人材の養成を目指します。

クリエイティビティイノベーション学科と大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティビリーダーシップコースは、英語名を「Institute of Innovation」に統一し、学部・大学院という枠組みを超えた連続性のある学びを展開します。大学院では学部の4年間で培った能力を基盤にして、分野を横断したサービスデザインやデザインビジネス研究など、徹底したプロジェクト実践型のカリキュラムを通して、社会問題の解決や新しい仕組みづくりにおける「クリエイティビリーダーシップ」を身につけ、企業のマネジメントや、起業・スタートアップ、ビジネス戦略といったフィールドで活躍する人材の育成を目指します。



学部1年生の授業「構成演習」。プレゼンテーションやディベート、グループワークを中心に、自分の考えを的かつ論理的に、説得力をもって伝えるスキルを身に付けます。



大学院の授業風景。1年を4つに区切るクオーター制や夜間・週末授業の導入など、社会人も履修しやすい環境を整えています。

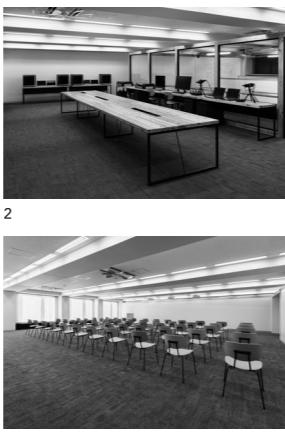
来る100周年に向けた改革②

都心キャンパスの開設 ~新たな2キャンパス制へ~

新学部・学科開設に合わせた都心キャンパスの開設は、従来の「美術大学」という言葉にまつわる固定的なイメージを打ち破り、美術大学で行われている教育こそが現代社会に必要とされている真にクリエイティブな人材養成にふさわしいものであることを、新たなかたちで実践的に示す存在を目指したものです。JR市ヶ谷駅から徒歩3分のビル物件を取得し、名称を「武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス」として、新設のクリエイティブイノベーション学科の3・4年生及び大学院クリエイティビリーダーシップコースが主に使用し、同学科・コースが特色とする企業等と共同で実施する実践的なプロジェクト教育や社会人の積極的な受入れを行っていきます。

市ヶ谷キャンパス

クリエイティブイノベーション学科の3・4年生及び大学院クリエイティビリーダーシップコースの学生が主に使用する市ヶ谷キャンパスには、講義室や演習室、大学院スペースのほか、プロジェクトベースの教育研究にふさわしい3つのスタジオを整備しています。また、1階共創スタジオには株式会社良品計画と共同で新しい学びの場を提案します。



1: プロジェクトに応じて集中して作業に取り組めるプロジェクトルーム／2: 3Dプリンターやレーザーカッターを備えたリアルプロトタイプスタジオ。専門スタッフも常駐します／3: 原寸大のシミュレーションができる大画面マルチスクリーン環境を導入したサービスプロトタイプスタジオ／4: 多様な授業形態にフレキシブルに対応できるように設計された講義室／5: 開放的な空間が特徴の大学院演習室。個人研究室も配置し、個別の研究から共同研究、プロジェクトに対応できます

鷺の台キャンパス

鷺の台キャンパス北側に設けられた15号館は、クリエイティブイノベーション学科の1・2年生が主に利用する校舎です。同学科の必修科目である「造形実習」や「造形演習」などアート・デザインの専門教育に対応できるよう、アトリエやデザイン演習室を整備しています。



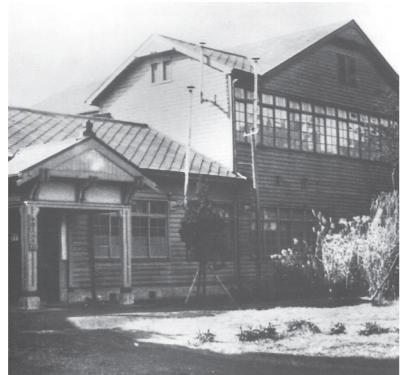
1: 鷺の台キャンパスに新設された15号館外観／2: 南面がガラス貼りで開放感のあるアトリエ。絵画や彫刻など実技課題の専用スペースです／3: デザイン演習室はホワイトボード仕様の可動仕切りで、さまざまな授業に対応できます

ABOUT MUSASHINO ART UNIVERSITY

学校法人の概要

帝国美術学校開校

美術史家の金原省吾、名取堯が中心となり、帝国美術学校を開校。(開校校主:木下成太郎、校長:北畠吉)日本画科、西洋画科、工芸図案科が置かれ、気鋭の作家・デザイナー、各分野の専門の研究者が教職員に招かれた



帝国美術学校校舎(1930年頃)



鷹の台キャンパス(1961年)



武蔵野美術大学開学式(1962年)

学校法人武蔵野美術学校を学校法人武蔵野美術大学と改称。武蔵野美術大学が設置され、国内で初めて「造形」という名の学部が開設される。造形学部には美術学科(日本画・油絵・彫刻専攻)、産業デザイン学科(商業デザイン・工芸工業デザイン・芸能デザイン専攻)が置かれ、別科実技修科も開設。(学長:有光次郎)

武蔵野美術大学設置

校歌制定(作詞:北原白秋、作曲:小松耕輔)。中国、台湾の留学生がこの年に、翌年には朝鮮の留学生が入学。帝国美術学校の自由かつ新たな画風を、アジアに発信し始める

同盟休校事件により、帝国美術学校と多摩帝国美術学校(現多摩美術大学)に分裂。帝国美術学校は新校舎で授業を再開する

学校法人武蔵野美術学校認可。(理事長:田中誠治、校長:名取堯)武蔵野美術短期大学(美術科)設置。(学長:有光次郎)

田中誠治理事長就任

世界芸術都市(パリ)の創立に創立会員として参加

「パリ賞」を制定し、卒業生の留学・研究の助成を強化

短期大学に通信教育部を開設

造形学部美術学科、産業デザイン学科の各専攻を日本画・油絵・彫刻・視覚伝達デザイン・工芸工業デザイン・芸能デザイン(現空間演出デザイン)学科に独立させる

鷹の台校に全学統合。吉祥寺に武蔵野美術学園を開設。(学園長:清水多嘉示)

創立60周年。記念企画展として「現代デザインの水脈; ウルム造形大学展」(新宿朝日生命ギャラリー)、「造形と創造の明日へ」(新宿NSビル)を開催

創立50周年記念式典挙行。「武蔵野美術50年の歩み」刊行

創立60周年記念館(現12号館)竣工

短期大学部(通信教育課程を含む)学生募集停止。造形学部に芸術文化学科、デザイン情報学科を開設。長尾重武学長就任

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻に写真コースを開設。造形学部油絵専攻と版画専攻を設置。『武蔵野美術大学短期大学部47年の系譜』刊行

イメージライブラーの開設準備を開始(全学向けオーブンは1993年)。『武蔵野美術大学六〇年史』刊行。創立60周年記念館(現12号館)竣工

久保義三理事長就任

大学院造形研究科に博士後期課程造形芸術専攻を開設。新宿サテライト開設

港区赤坂に「デザイン・ラウンジ」を開設。天坊昭彦理事長就任

1月末の新宿サテライト閉室に伴い、通信教育課程週末スクーリングの教室や、公開講座、インフォメーションなど、本学と社会を結ぶ拠点となる三鷹ルームを武蔵野市に設置

鷹の台校美術資料図書館新棟竣工。美術資料図書館を美術館・図書館に名称変更

造形構想学部を開設し、クリエイティブイノベーション学科を新設。造形学部より映像学科を移設。大学院造形構想研究科造形構想専攻(クリエイティブリーダーシップコース、映像・写真コース)を開設。東京都新宿区に市ヶ谷キャンパスを同時開設。造形学部通信教育課程工芸工業デザイン学科学生募集停止

創立90周年 新学部・大学院開設

1929 1930 1931 1935 1947 1948 1951 1956 1957 1959 1961 1962 1963 1964 1965 1967 1969 1971 1973 1974 1978 1979 1983 1986 1987
昭和4年、昭和5年、昭和6年、昭和10年、昭和22年、昭和23年、昭和26年、昭和31年、昭和32年、昭和34年、昭和36年、昭和37年、昭和38年、昭和39年、昭和40年、昭和42年、昭和44年、昭和46年、昭和48年、昭和49年、昭和53年、昭和54年、昭和58年、昭和61年、昭和62年

1988 1989 1990 1991 1994 1995 1999 2000 2002 2003 2004 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2015 2016 2017 2018 2019
昭和63年、昭和64年、平成2年、平成3年、平成6年、平成7年、平成11年、平成12年、平成14年、平成15年、平成16年、平成18年、平成19年、平成20年、平成21年、平成22年、平成23年、平成24年、平成25年、平成27年、平成29年、平成30年、平成31年
帝和元年

彫刻科、師範科設置

造型美術学園に校名を変更(学園長:山脇巖)

西洋画科通信教育部を開設し、夏期スクーリングを開始。準学校法人として学校法人武蔵野美術学校が認可される

武蔵野美術学校に校名変更。(校長:名取堯)日本画科、西洋画科、彫刻科、工芸図案科が置かれる

大学院開設

造形専攻科を廃止し、大学院造形研究科(修士課程)を開設。二つの専攻で構成され、美術専攻には日本画・油絵・彫刻コース、デザイン専攻には商業デザイン(現視覚伝達デザイン)・工芸工業デザイン・芸能デザイン(現空間演出デザイン)・建築・基礎デザイン(現基礎デザイン学)コースが置かれる

武蔵野市吉祥寺に「ギャラリーαM」を開設(2009年、東京・馬喰町にノンプロフィットギャラリー「gallery αM」として移転)。武蔵野美術短期大学を武蔵野美術大学短期大学部に校名変更。大学院造形研究科美術専攻に造形学(現造形理論・美術史)コース、造形学部空間演出デザイン学科ファンションデザインコースが開設される

建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学の教育理念は、1929(昭和4)年10月30日、本学の前身である帝国美術学校の創立に由来するものです。

帝国美術学校の創立に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾(開校時監督)の手記には「教養を有する美術家養成」と記されています。また、創立時の中心人物の一人、名取堯(開校時主事)の『武蔵野美術』(創立30周年記念特集)に寄せられた30年の回顧には、「人間が人間になる道は激しい鍛錬、たゆまざる精進の中にあって、

放任の中にはない、その框(わく)を固定させず、しかも、放縱に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られており、美術を技術的専門性だけではなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えたのです。このように、まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念であると言えることができ、国内美術大学では最大規模の造形教育の大학となった現在も、この教育理念を継承し堅持しています。

市ヶ谷キャンパス(2019年)



シンボルについて

「美」の一文字をモチーフにした本学のシンボルマーク(美マーク)は、帝国美術学校時代に定められました。1996(平成8)年に勝井三雄本学名誉教授が考案した「MAU」ロゴとともに、「教養を有する美術家養成」「真に人間的自由に達するような美術教育」という建学の精神を、現在も変わることなく表しています。



80周年記念事業

有楽町朝日ホールにおいて、創立80周年記念式典が挙行。世界美術大学学長サミット「美術大学の時代的、社会的意義と使命: 生きる、をつくる。つくる、を生きる。」や国際デザインシンポジウム「21世紀高度デザイン教育の展望—美術大学が拓く新たなデザイン教育へ—」など、多くの記念行事を催し、80周年記念誌『武蔵野美術大学のあゆみ1929-2009』も刊行された



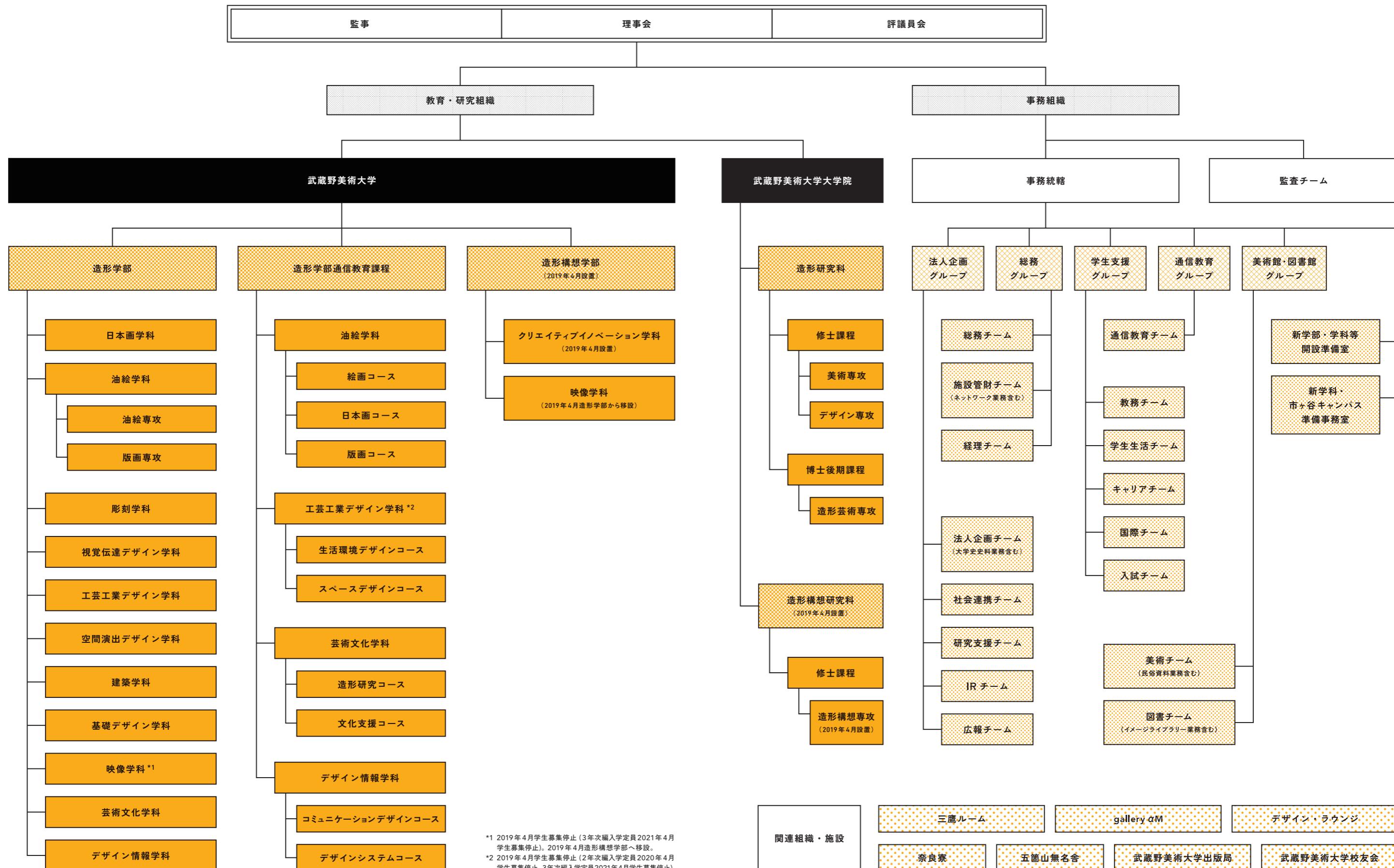
鷹の台キャンパス(2010年)



14号館のガラス工房(2016年)

組織図

ORGANIZATION CHART



◎ 大学院 造形研究科 修士課程 (2018年5月1日現在)

専攻	コース	収容定員	1年次	2年次	学生数	収容定員充足率
美術専攻	日本画コース		6	15	21	2.05
	油絵コース		24	21	45	
	版画コース		8	8	16	
	彫刻コース		9	8	17	
	造形理論・美術史コース		4	2	6	
	芸術文化政策コース		2	8	10	
	小計	56	53	62	115	
デザイン専攻	視覚伝達デザインコース		10	10	20	2.34
	工芸工業デザインコース		12	17	29	
	空間演出デザインコース		0	6	6	
	建築コース		14	11	25	
	基礎デザイン学コース		5	8	13	
	映像コース		13	10	23	
	写真コース		5	7	12	
	デザイン情報学コース		2	1	3	
	小計	56	61	70	131	
合計		112	114	132	246	2.2

※2年次生には、修了延期者を含む。

◎ 大学院 造形研究科 博士後期課程（2018年5月1日現在）

専攻	収容定員	1年次	2年次	3年次	学生数	収容定員充足率
造形芸術専攻	18	6	3	3	12	0.67

◎ 造形学部 通学課程（2018年5月1日現在）

学科・専攻		収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	学生数	収容定員充足率
日本画学科		160	47	44	42	45	178	1.11
油絵学科	油絵専攻		124	138	134	124	520	1.08
	版画専攻		25	25	32	28	110	
	小計	584	149	163	166	152	630	
彫刻学科		132	38	36	37	35	146	1.11
視覚伝達デザイン学科		422	108	112	110	111	441	1.05
工芸工業デザイン学科		556	136	145	146	150	577	1.04
空間演出デザイン学科		500	126	137	132	141	536	1.07
建築学科		330	91	84	92	91	358	1.08
基礎デザイン学科		302	77	79	86	80	322	1.07
映像学科		350	88	92	92	104	376	1.07
芸術文化学科		326	91	92	76	76	335	1.03
デザイン情報学科		400	110	102	108	99	419	1.05
合計		4,062	1,061	1,086	1,087	1,084	4,318	1.06

◎ 造形学部 通信教育課程（2018年5月1日現在）

	学科・コース	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	学生数	収容定員充足率
油絵学科	絵画コース		75	284	69	180	608	1.08
	日本画コース		24	122	37	128	311	
	版画コース		4	40	22	72	138	
	小計	980	103	446	128	380	1,057	
工芸工業デザイン学科	生活環境デザインコース		18	90	9	58	175	0.41
	スペースデザインコース		18	65	8	38	129	
	小計	735	36	155	17	96	304	
芸術文化学科	造形研究コース		4	20	17	51	92	0.72
	文化支援コース		11	41	47	160	259	
	小計	490	15	61	64	211	351	
デザイン情報学科	コミュニケーションデザインコース		40	255	31	95	421	0.72
	デザインシステムコース		15	56	10	27	108	
	小計	735	55	311	41	122	529	
合計		2,940	209	973	250	809	2,241	0.76

※4年次生には、卒業延期者を含む。

◎ 造形学部・造形構想学部

一般入学試験結果（男女別／卒業年度）

学科	一般方式							センター方式／学部統一							
	募集 人員	志願者数			合格者数			募集 人員	志願者数			合格者数			
		男性	女性	2018 年度卒	男性	女性	2018 年度卒		男性	女性	2018 年度卒	男性	女性	2018 年度卒	
造形学部	日本画学科	24	28	104	85	9	17	10	7	24	91	78	3	7	3
	油絵学科 油絵専攻	72	101	290	249	18	71	51	30	85	272	230	13	41	25
	油絵学科 版画専攻	9	17	63	59	5	13	13	5	13	58	54	3	12	13
	彫刻学科	14	25	32	33	9	9	10	7	31	46	44	8	4	3
	視覚伝達デザイン学科	80	206	513	469	19	91	67	37	167	458	419	15	55	42
	工芸工業デザイン学科	59	99	184	175	27	64	54	40	97	186	175	31	73	60
	空間演出デザイン学科	47	61	205	193	15	67	58	26	44	204	181	13	59	46
	建築学科	35	88	94	112	18	28	21	15	87	89	98	24	20	16
	建築学科 センターB方式								12	113	103	118	30	22	19
	基礎デザイン学科	35	78	237	216	14	53	46	22	64	206	183	17	53	45
	基礎デザイン学科 センターB方式								8	54	104	113	12	22	21
	芸術文化学科	25	40	83	77	9	29	23	10	32	63	63	11	22	24
	芸術文化学科 センターB方式								13	44	103	89	14	35	25
	デザイン情報学科	40	106	215	204	27	76	65	18	82	178	168	21	54	48
	デザイン情報学科 センターB方式								8	74	139	134	6	26	20
造形構想学部	クリエイティブノベーション学科 学部統一								10	95	102	144	7	15	13
	クリエイティブノベーション学科 一般	38	78	92	131	14	24	25							
	クリエイティブノベーション学科 センター3教科型									96	115	156	12	23	23
	クリエイティブノベーション学科 センター5教科型									19	11	21	2	6	4
	映像学科 学部統一								6	87	81	111	4	6	6
	映像学科 一般	42	75	83	105	15	33	29							
	映像学科 センター2教科 + 専門試験型									76	72	108	4	11	11
	映像学科 センター3教科型									59	71	83	3	5	4
合計		520	1,002	2,195	2,108	199	575	472	291	1,443	2,752	2,770	253	571	471

入試結果

公募制推薦入学試験【前期】

	学部	学科	募集人員	志願者数	一次合格者数	二次合格者数
一般型(前期)	造形学部	日本画学科	8	27	27	9
		油絵専攻	18	87	68	22
		版画専攻	3	13	13	7
		彫刻学科	5	14	14	5
		工芸工業デザイン学科	18	40	36	17
		空間演出デザイン学科	35	82	60	37
		建築学科	10	36	36	10
		基礎デザイン学科	8	31	21	8
		芸術文化学科	12	17	17	15
		デザイン情報学科 表現力重視方式	5	12	12	7
		デザイン情報学科 実績重視方式	5	2	2	2
		小計	127	361	306	139
		工芸工業デザイン学科	3	4	4	3
		芸術文化学科	2	4	4	2
		小計	5	8	8	5
合計			132	369	314	144

公募制推薦入学試験【後期】

学部	学科	募集人員	志願者数	合格者数
造形学部	油絵学科 版画専攻	3	10	3
	彫刻学科	5	8	5
合計		8	18	8

総合入学試験【前期】

学部	学科	募集人員	志願者数	一次選考合格者数	二次選考合格者数
造形構想学部	クリエイティブイノベーション学科 構想力重視方式	10	54	54	13
	映像学科 ディレクション資質重視方式	8	30	30	8
	映像学科 クリエイション資質重視方式	8	46	46	8
合計		26	130	130	29

総合入学試験【後期】

学部	学科	募集人員	志願者数	合格者数
造形構想学部	クリエイティブイノベーション学科 英語力重視型	8	7	4
	クリエイティブイノベーション学科 数学力重視型		1	1
映像学科	英語力重視型	5	6	3
	数学力重視型		6	2
合計		13	20	10

※ 15~17ページに掲載しているデータは、2018年9月から2019年2月に実施した入試結果です。その他の入試方式の結果は、本学webサイト(入試データ)でご確認ください。

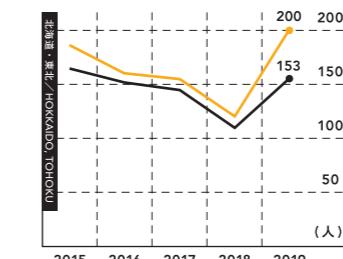
EXAMINATION RESULTS

都道府県別志願者数の推移

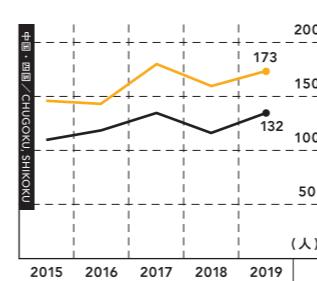
(2015~2019年度の一般入試結果から)

一般方式
センター方式

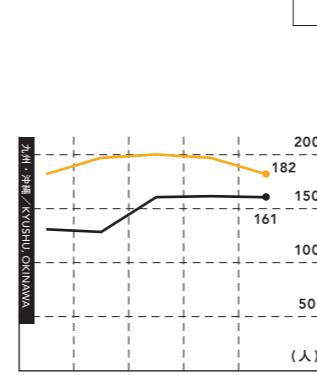
※ 2018年度までの「センター方式」は造形学部センターA・B方式の合算。2019年度の「センター方式」は造形学部センターA・B方式、造形構想学部学部統一方式とセンター試験を利用する方式の合算。



北海道・東北



中部



近畿

中国・四国

九州・沖縄

検定・外国校・その他

◎ 大学院造形研究科

博士後期課程入学金及び授業料等

	前期分(入学手續時)	後期分(9月)
入学金(入学時のみ)	180,000円	—
授業料	592,500円	592,500円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	937,500円	757,500円
年間合計	1,695,000円 2年次以降 1,515,000円	

※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費(終身会費)が徴収されます。

修士課程入学金及び授業料等

	前期分(入学手續時)	後期分(9月)
入学金(入学時のみ)	180,000円	—
授業料	592,500円	592,500円
実習費(コースにより異なる)	14,750~32,750円	14,750~32,750円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	952,250~970,250円	772,250~790,250円
年間合計	1,724,500~1,760,500円 2年次以降 1,544,500~1,580,500円	

※ 実習費は、コースにより金額が異なります(下記は年額)。
日本画 33,000円、油絵・版画 52,500円、彫刻・映像・写真・デザイン情報学 65,500円、造形理論・美術史・芸術文化政策・空間演出デザイン・建築・基礎デザイン学 29,500円、視覚伝達デザイン 39,500円、工芸工業デザイン 57,500円
※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費(終身会費)が徴収されます。

◎ 造形学部通学課程

入学金及び授業料等

	前期分(入学手續時)	後期分(9月)
入学金(入学時のみ)	360,000円	—
授業料	592,500円	592,500円
実習費(学科により異なる)	14,750~32,750円	14,750~32,750円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	1,132,250~1,150,250円	772,250~790,250円
年間合計	1,904,500~1,940,500円 2年次以降 1,544,500~1,580,500円	

※ 実習費は、学科により金額が異なります(下記は年額)。
日本画 33,000円、油絵 52,500円、彫刻・映像・デザイン情報 65,500円、視覚伝達デザイン 39,500円、工芸工業デザイン 57,500円、空間演出デザイン・建築・基礎デザイン・芸術文化 29,500円
※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費(終身会費)が徴収されます。

委託学生

	委託学生 A	委託学生 B
登録料	45,000円	45,000円
受講料(講義)	34,500円	—
受講料(実技演習)	69,000円	—
受講料(1年以内)	—	592,500円
受講料(6か月以内)	—	296,250円
実習費	3,500円	実費
選考料	10,000円	10,000円

※ 委託学生 A: 授業科目の受講を目的とする者。
※ 委託学生 B: 受入研究室及び担当教員の指導に基づき、本人の研究テーマについて修学することを目的とし、授業科目の受講を主たる目的としない者。
※ 委託学生 A の受講料及び実習費は 1 単位当たりの額。
※ 委託学生 B の実習費は、実習費用が伴う場合、その都度実費を本人が負担します。

科目等履修生

	一般	教職課程及び学芸員課程
登録料	45,000円	45,000円
受講料(講義)	34,500円	3,450円
受講料(実技演習)	69,000円	6,900円
実習費	3,500円	3,500円
教育実習費	—	10,000円
介護等体験費	—	14,000円
博物館実習費	—	21,000円
選考料	10,000円	10,000円

※ 受講料・実習費は 1 単位当たりの額。
※ 教職課程及び学芸員課程: 本学の卒業生で教員免許取得及び学芸員資格取得を目的とする科目等履修生。
※ 教職課程及び学芸員課程の登録料は、本学大学院に在籍している者の場合、免除されます。
※ 別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。

学籍継続者(卒業延期者)

在籍料	65,000円
受講料(講義(一般))	17,250円
受講料(講義(教職・学芸員))	5,500円
受講料(実技演習)	34,500円
実習費	3,500円

※ 在籍料の算定は 5,000 円単位とし、その中間金額を超える場合は切上げを行います。
※ 在籍料は前期(半期)のみの在籍の場合、半額の 32,500 円とします。
※ 受講料・実習費は 1 単位当たりの額。

教職課程履修費及び学芸員資格取得に係る履修費

教職課程履修費(登録料)	24,500円
学芸員履修費(登録料)	21,000円

研究生

	学部・大学院	外国人
登録料	45,000円	45,000円
研究指導料	690,000円	1,190,000円
実習費(研究領域により異なる)	29,500~65,500円	29,500~65,500円
年間合計	764,500~800,500円	1,264,500~1,300,500円

※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料及び学研付帯賠償責任保険料合計 1,340 円(予定)が徴収されます。
※ 本学入学・在籍にあたり留学ビザを取得・保有される方は別途、インバウンド留学生向け学研付帯学生生活総合保険料 11,500 円(予定)が徴収されます。

◎ 造形学部通信教育課程

入学金及び授業料

	1年次	2・3・4 年次
入学金(入学時のみ)	30,000円	—
授業料	285,000円	285,000円
合計	315,000円	285,000円

※ 編入学者に係る入学金は 30,000 円。
※ 本学別科を含む、本学短期大学部(通信教育部を含む)、本学短期大学(通信教育部を含む)、武蔵野美術学校、武蔵野美術学園等の卒業生及び中退者は、入学金(編入料)を免除。本学造形学部通学課程からの転籍者も入学金を免除。

面接授業受講料

- 鷹の台校・吉祥寺校・三鷹教室で開催の場合: 講義科目は 1 単位につき 8,000 円、講義科目以外の授業科目は 1 単位につき 13,000 円
- 上記以外の地方会場で開催の場合: 講義科目は 1 単位につき 10,000 円、講義科目以外の授業科目は 1 単位につき 16,000 円

教職課程履修費

- 教育職員免許法第 5 条第 1 項別表第 1 による場合: 114,000 円
- 教育職員免許法第 6 条第 2 項別表第 3 及び別表第 8 による場合: 57,000 円
- 教育職員免許法第 6 条第 3 項別表第 4 による場合: 57,000 円

学芸員課程履修費

69,000円

科目等履修生

	一般	教職生 ^{*1}	教職生 ^{*2}	特修生
登録料	40,000円	40,000円	40,000円	40,000円
受講料(講義科目)	12,000円	8,400円		12,000円
受講料(講義科目以外)	18,000円	12,600円	319,000円	18,000円
考查料	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円

^{*1} 教育職員免許法第 6 条別表第 3 及び別表第 8 による場合

^{*2} 教育職員免許法第 6 条別表第 4 による場合

※ 教育職員免許法第 6 条別表第 4 による場合の教職生を除き、受講料は 1 単位当たりの額。

入学金減免について

本学では、本学の卒業、修了者が再度本学に入学する場合、また、造形学部に兄弟姉妹が在籍する入学者を対象に、入学金が全額または半額免除される入学金減免制度を用意しています。

*1 造形学部には、通信教育課程を含みます。

*2 短期大学部には、通信教育課程を含みます。また、専攻科修了後学位授与機関において学士の称号を得た者を含みます。

*3 造形学部(通信教育課程及び科目等履修生を除く)に在籍する学生の兄弟姉妹であり、新入学生となる者、また、本学の他の規則や制度等に基づき入学金の全額を免除されていない者とします。なお、入学金の免除を受ける者は、同時期に入学した場合は、その一方の者とし、3 人以上在籍する場合は、2 人目から免除します。※ 転科・専攻科は、在学生の本学造形学部内での学

◎ 大学奨学金(給付型)

名称	対象	選考基準	支給額(年額)	採用人数
武蔵野美術大学奨学金	造形学部 大学院博士前期課程 (修士課程)	人物及び学力が優秀であり、かつ経済上の事情により修学することが困難であると認定された者	592,500円	50名
			300,000円	160名
武蔵野美術大学 奨学金緊急採用	全学生	家計支援者が死亡、破産等により家計が急変した学生で、修学の継続が困難な学生	家計状況により決定	4名
武蔵野美術大学 奨学金緊急採用(災害罹災用)	全学生	自然災害に罹災し、教務チームの授業減免制度を受けていない学生で、修学の継続が困難な学生	罹災程度により決定	定員なし
武蔵野美術大学 大学院博士前期課程(修士課程) 奨励奨学金	大学院博士前期課程 (修士課程)	博士前期課程(修士課程)に在籍する優秀で意欲のある学生	500,000円	3名
武蔵野美術大学 大学院博士後期課程奨励奨学金	大学院博士後期課程 (博士課程)	大学院博士後期課程に在籍する優秀で意欲のある学生	592,500円 (3年間給付)	入学者数
武蔵野美術大学 校友会奨学金	造形学部4年生	勉学に熱意をもつ学部4年生。卒業制作企画案により選考	100,000円	12名
武蔵野美術大学 外国留学奨励奨学金	協定留学対象者	協定留学生として選考され、受入大学等の承認を得て留学が確定した者	留学期間に応じて日本学生支援機構海外留学支援制度(短期派遣)が定める派遣先地域による奨励金月額	協定留学確定者数

◎ 研究室推薦の奨学金(給付型)

名称	対象	選考基準	支給額(年額)	採用人数
清水多嘉示賞	大学院博士前期課程(修士課程) 彫刻コース	彫刻学科を卒業し、大学院彫刻コースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつ作家としての将来性が有望な者	100,000円 (2年間給付)	1名
三林亮太郎賞	大学院博士前期課程(修士課程) 空間演出デザインコース	空間演出デザイン学科を卒業し、大学院空間演出デザインコースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつデザイナーとしての将来性が有望な者	100,000円 (2年間給付)	1名
三雲祥之助賞	大学院博士前期課程(修士課程) 油絵コース	本学油絵学科を卒業し、大学院油絵コースに入学した学生で卒業制作が極めて優秀かつ作家としての将来性が有望である者	100,000円 (2年間給付)	1名
飯田三美賞	大学院博士前期課程(修士課程) 工芸工業デザインコース	工芸工業デザイン学科を卒業し、大学院工芸工業デザインコースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつデザイナーとしての将来性が有望な者	100,000円 (2年間給付)	1名
前田常作賞	大学院博士前期課程(修士課程) 油絵コース版画コース	油絵学科を卒業し、大学院油絵コース又は版画コースに入学した者で、油絵学科の卒業制作の成績が極めて優秀であり作家としての将来性が有望な者	100,000円 (2年間給付)	各コース 1名
杉村奨学金	造形学部空間演出デザイン学科	空間演出デザイン学科に在籍し、優秀なる資質を有する学生	100,000円	1名
橋本修英奨学金	大学院博士前期課程(修士課程) 建築コース	大学院建築コースに在籍し、優秀なる資質を有する学生	100,000円	1名
岡井奨学金	大学院博士前期課程(修士課程) 視覚伝達デザインコース	大学院視覚伝達デザインコースに在籍し、優秀な資質を有する留学生	100,000円	1名
根岸奨学金	大学院博士前期課程(修士課程) 油絵コース	大学院油絵コースに在籍し、造形学部在学中に「絵画組成」の授業を履修し、優秀な成績を修めた学生	100,000円	1名

◎ 外国人留学生を対象とした本学奨学金(給付型)

名称	対象	選考基準	支給額(年額)	採用人数
武蔵野美術大学 私費外国人留学生奨学金	造形学部、大学院博士前期課程(修士課程)の留学生	人物及び学力が優秀であり、かつ経済上の事情により修学することが困難であると認定された者	300,000円	6名

◎ 卒業生を対象とした奨学金(給付型)

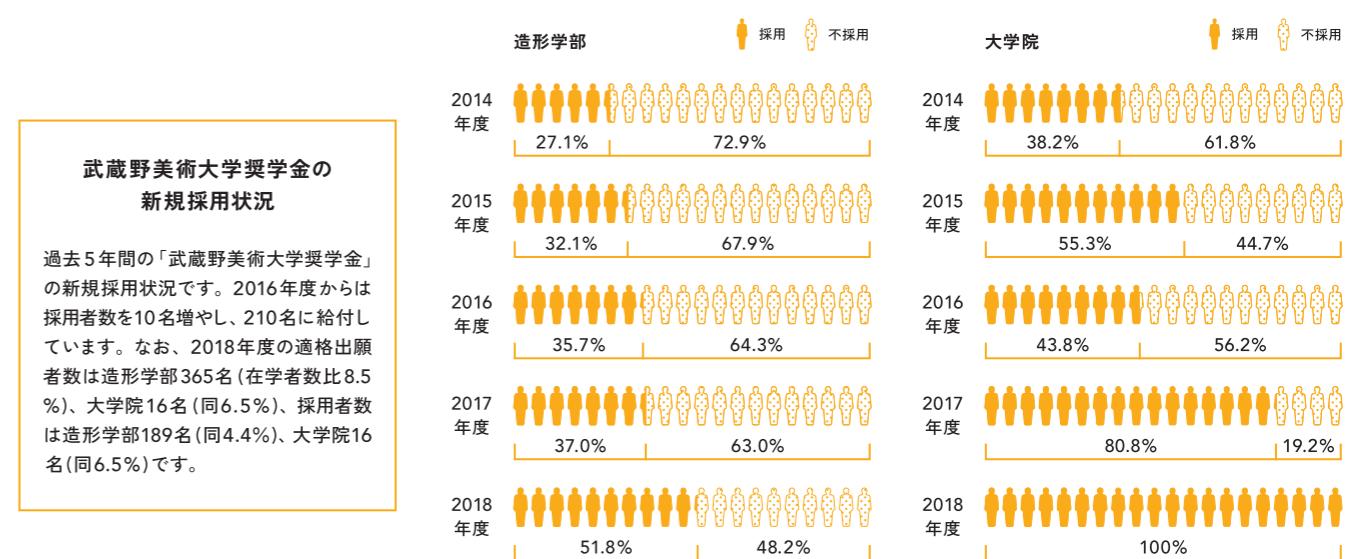
名称	対象	選考基準	支給額(年額)	採用人数
武蔵野美術大学 海外留学研究奨励奨学金	学士・修士学位取得者	卒業若しくは修了後に、学位取得を目的として海外の大学院の正規課程に進学する者又は本学が大学院と同等であると認めた海外高等教育機関の正規課程に進学する者(募集年限あり)	1,000,000円	1名

◎ 授業料減免制度

名称	対象	選考基準	支給額	採用人数
経済的支援授業料減免	造形学部 大学院博士前期課程 (修士課程)	家計困窮により修学の継続が困難な学生	当該年度半期授業料の3割	220名
災害救助法による学費減免	全学生	災害救助法適用地域に学費支援者が在住し、自然災害で罹災し修学の継続が困難と認められた学生	罹災程度により決定	定員なし
私費外国人留学生授業料減免	造形学部・大学院博士前期課程(修士課程)に在籍する私費留学生	出席良好でかつ、経済的理由により修学の継続が困難な者	授業料の3割を上限	定員なし (原資上限あり)

武蔵野美術大学奨学金の新規採用状況

過去5年間の「武蔵野美術大学奨学金」の新規採用状況です。2016年度からは採用者数を10名増やし、210名に給付しています。なお、2018年度の適格出願者数は造形学部365名(在学者数比8.5%)、大学院16名(同6.5%)、採用者数は造形学部189名(同4.4%)、大学院16名(同6.5%)です。





◎ 進路・就職支援

キャリア支援(1年次～)

- 入学直後から、将来の夢や“なりたい自分”をイメージし、自分で考え、行動する力を身につけられるよう様々な支援プログラムを開催しています。
- ◎新入生進路就職オリエンテーション | 入学直後から将来の進路を見据え、目的意識を持って有意義に大学生活を送ることができるよう、学び・進路・就職について考えるオリエンテーションを実施しています。
- ◎進路就職講座(1回／年) | 美術大学の特性を生かし、幅広い視点から進路を考える基礎講座です。全学年を対象にしています。
- ◎キャリア設計基礎(前期・後期各2単位) | 社会や職業、自己への理解を深めながら、生涯を通じたキャリアプランを主体的に設計できる基礎力を身につけることを目的とした正課授業です。

インターンシップ

インターンシップでは企業や公共機関、各種団体等での就労体験を通じて、社会への視野を広げ、業界や職種への理解を深めることができます。本学では民間企業をはじめ、美術・博物館、市役所などの公共機関、地域の文化活動や環境保護活動を行っている団体など、多彩な領域のインターンシップを紹介しています。また、インターンシップに参加するにあたっての心構えや探し方、諸手続の進め方のほか、先輩からの体験談を聞くことができるインターンシップオリエンテーションも実施しています。

◎ インターンシップ参加実績(2018年度実績より一部抜粋)

IMAGICA Lab. / LIXIL / アクア / アクセア / アシックス / あとらす二十一 / イトーキ / エイベックス / エプソン / オカムラ / オリエンタルランド / カインズ / カシオ計算機 / カリモク家具 / キヤノン / クラウンパッケージ / グラフィック / グリー / グレープストーン / ケイ・ウノ / コクヨ / コロプラ / サイバーエージェント / 三松 / シマノ / シャープ / セイコーエプソン / セガ / ソニー / タカラトミー / ディー・エヌ・エー / 東芝 / 任天堂 / バナソニック / フジテレビ / ヘキサドライブ / ベクトル / ポルテージ / ミキハウス / 三越伊勢丹 / 良品計画 / ルミネ / 劇団四季 / 電通 / 凸版印刷 / 日産自動車 / 日本設計 / 乃村工藝社 / 博報堂 / 富士フイルム / 毎日オーディション

主な就職支援行事(3年次)

4月～	第1回進路・就職ガイダンス、インターンシップガイダンス、ポートフォリオ作成支援プログラムガイダンス、就活応援講座
6月	業界・職種研究会(5月～随時)、進路・就職講座
9月	第2回進路・就職ガイダンス
10月	企業ガイダンス、ポートフォリオ・プレゼンテーション指導会

本学の学生は創作活動を通じて、美術・デザインの専門性を高めながら、幅広い教養やものごとを深く考える力、そしてあらゆる表現手段を用いたコミュニケーション能力を養っていきます。言い換えれば、本学での4年間は、社会人として必要な基礎を固めていく大切な時間であり、大学におけるすべての活動がキャリア形成につながっているのです。学生一人ひとりが納得のいく進路選択ができるよう、キャリアセンターや各学科研究室できめ細かな進路指導を実施。多彩なキャリア・就職支援体制を整えて、夢の実現をサポートしています。

就職支援(3・4年次)

- 就職採用試験のスケジュールに合わせて、タイムリーかつ実践的なプログラムを提供しています。
- ◎進路・就職ガイダンス | 就職活動を行ううえで必要となる基本的な事項等の情報を提供。3年次の4月から4年次にかけて計3回、実施しています。
- ◎業界・職種研究会 | 学生の関心が高い業界・職種の第一線で活躍している方(主に卒業生)が講師として参加する研究会です。実際の仕事内容について理解を深め、進路選択に役立てます。

求人情報等の提供

企業を正しく知ることが、就職への第一歩です。キャリアセンターでは企業の求人情報をタイムリーに提供しています。

- ◎進路情報システム | 本学独自の就職情報システムで約7,000社の企業等のデータを収集しており、学生はインターネット経由でどこからでも利用できます。
- ◎進路情報スペース | キャリアセンター内には、進路・就職に関する情報誌やパンフレットの配布、採用を行っている企業からの求人票の閲覧などができるスペースを設けています。また、卒業生が就職活動で利用したポートフォリオを閲覧することができます。
- ◎学内での会社説明会 | 年間100社を超える学内での会社説明会を実施しています。企業等の採用担当者や本学卒業生より直接会社の説明を受けられる機会です。

キャリアセンター・キャリアカウンセラーによる就職相談

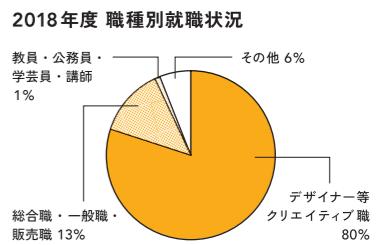
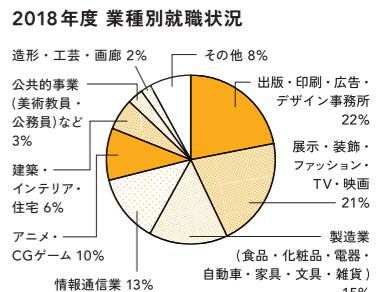
キャリアセンターの相談窓口では、学科別の担当者およびキャリアカウンセラーが個別相談を受け付けています。また、履歴書・エントリーシートの書き方、クリエイティブ系の就職活動に必要なポートフォリオのつくり方、模擬面接など、進路に関することについて全般的にバックアップ。一人ひとりの個性や強みを生かした就職活動を行えるよう、きめ細かなサポートを展開しています。

◎ 2018年度卒業生の進路状況(2019年5月1日現在)

近年では造形感覚や造形能力を持つ人材が広く社会から求められるようになり、作家やデザイナー以外にも、様々な企業へ就職の可能性が広がっています。美術大学で培われた幅広い視野と高い専門性を基本としながら、新しい領域を開拓していく人材を数多く輩出しているのも、本学の特徴といえます。

造形学部

学科	卒業者	就職希望者	就職者	進学者	その他作家活動を含む	就職率(就職者／希望者)
造形学部	日本画学科	43	14	11	15	17
	油絵学科	141	69	64	29	92.8%
	彫刻学科	33	15	13	8	86.7%
	視覚伝達デザイン学科	105	83	74	2	89.2%
	工芸工業デザイン学科	143	107	101	9	94.4%
	空間演出デザイン学科	129	69	55	5	79.7%
	建築学科	82	57	55	11	96.5%
	基礎デザイン学科	74	52	42	4	80.8%
	映像学科	90	45	39	9	86.7%
	芸術文化学科	70	44	40	4	90.9%
	デザイン情報学科	89	71	64	4	90.1%
合計		999	626	558	100	341
						89.1%



大学院造形研究科

コース	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他作家活動を含む	就職率(就職者／希望者)
大学院	日本画コース	15	2	2	0	13
	油絵コース	20	8	6	1	13
	版画コース	7	0	0	2	5
	彫刻コース	8	3	2	0	6
	造形理論・美術史コース	2	1	0	0	2
	芸術文化政策コース	7	6	5	0	2
	視覚伝達デザインコース	10	3	3	1	6
	工芸工業デザインコース	17	7	6	2	9
	空間演出デザインコース	6	2	2	0	4
	建築コース	11	4	4	0	7
	基礎デザイン学コース	7	4	2	0	5
	映像コース	9	6	3	2	4
	写真コース	7	1	1	0	6
	デザイン情報学コース	0	0	0	0	-
	博士後期課程 造形芸術専攻	2	1	1	0	1
合計		128	48	37	8	83
						77.1%

※修了者の他、満期退学者も含む。

◎ 造形学部学科別就職実績 (2015~2018年度実績より抜粋)

日本画学科
[出版・印刷・広告・デザイン事務所]
日本創発グループ／東栄広告／マーキュリー

[展示・装飾・ファッショント・V・映画]
日本テレビアート／歌舞伎座舞台／金井大道具／鞆工房山本／クレアール／テレビ山梨

[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]
Ouga／カインズ／スガツネ工業／日本アクリア／ブルーブルーエジャパン

[建築・インテリア・住宅]
ディーワークス／横森製作所
[アニメ・CG・ゲーム]
任天堂／カブコン／コナミグループ／Cygames／マーベラス／メトロ／Aiming／ジー・シー・スタッフ

[情報通信業]
あとらす二十一／イクシール／コロプラ／マイネット

[公共の事業(美術教員・公務員など)]
東京都教員／特定非営利活動法人道

[造形・工芸・画廊]
松鶴堂／糸あやつり人形一糸座

油絵学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]
電通クリエーティブX／佐川印刷／岐阜文芸社／エスパック／アクア／キンコーズ

ジャパン／セントラルプロフィックス／東京オフ印刷

[展示・装飾・ファッショント・V・映画]
俳優座劇場／AOI Pro.／テレビ朝日／角川大映スタジオ／日本テレビアート／東宝舞台／土屋鞆製作所／俄／中川政七商店／イビサ／45RPMスタジオ／ブチバトージャパン／ジュングルーブ

[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]
新東京フード／モントール／世界堂／ユザワヤ商事／田島ルーフィング

[建築・インテリア・住宅]
DNP住空間マテリアル販売／天童木工／三谷産業／パークコーポレーション

[アニメ・CG・ゲーム]
カブコン／コエーテクモグループ／コロプラ／フロム・ソフトウェア／Cygames／1UPスタジオ／セガグループ／DeNA／レベルファイブ／プラチナゲームズ／アドグローブA-1ピクチャーズ

[情報通信業]
IMAGICAイメージワークス／サイバーエージェント／インベーションシステム

[公共の事業(美術教員・公務員など)]
東京都教員／埼玉県教員／千葉県教員／宁波大学科学技術学院／福武財團(アートサイト直島)／アダチ伝統木版画技術保存財团

[造形・工芸・画廊]
藤浪小道具／オオタファインアーツ

[その他]
阪急阪神百貨店／パルコ／大丸松坂屋百貨店／紀伊国屋書店／イオンリテール

彫刻学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]
スタジオ玄

[展示・装飾・ファッショント・V・映画]
昭栄美術／金井大道具／土屋鞆製作所／アックス／ピラミッドフィルムクラドア

[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]
フィアローコーポレーション／小峰玩具製作所／本田技術研究所／スズキ

[アニメ・CG・ゲーム]
任天堂／スクウェア・エニックス／コエーテクモグループ／エイチーム／マッドハウス／ILCA

[情報通信業]
ミツエーリンクス／アイビーキューブ

[公共の事業(美術教員・公務員など)]
神奈川県教員／新宿区

[造形・工芸・画廊]
平和マネキン

[その他]
東京リサイクル

視覚伝達デザイン学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]
大日本印刷／凸版印刷／図書印刷／光村印刷／朝日新聞社／共同通信社／毎日新聞社

[展示・装飾・ファッショント・V・映画]
カブコン／コエーテクモホールディングス／スコニミグループ／タツノコプロ／東映

[建築・インテリア・住宅]
大成建設／コトブキ／オークリベッジ／

スイマージュ／ミサワホーム／一条工務店

[アニメ・CG・ゲーム]
スタジオジブリ／セガ

[情報通信業]
サイバーエージェント／チームラボ／DM.com／松竹映像センター

[その他]
大丸松坂屋百貨店／阪急阪神百貨店

[展示・装飾・ファッショント・V・映画]
IMAGICA／アックス／NHKアート／テレビマンシュオン

[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]
サンリオ／べんてる／日清食品／ナリス化粧品／アサヒ飲料／赤城乳業／花王／

資生堂／クレープストーン／日本食研HD／キリンビバレッジ／メリーチョコレート

[建築・インテリア・住宅]
乃村工藝社／TSP太陽

[アニメ・CG・ゲーム]
任天堂／ポケモン／スクウェア・エニックス

ス／コエーテクモホールディングス／カブコン／コナミグループ／プロダクション・

アイジ／びえろ／Aiming／セガインタラクティブ

[情報通信業]
ヤフー／コロプラ／ニフティ／カヤック／

富士ソフト／博報堂 アイ・スタジオ

[公共の事業(美術教員・公務員など)]
東京都教員

[宮内庁／LEGOLAND® Japan]

工芸工業デザイン学科

[出版・印刷・広告・デザイン事務所]

博報堂／凸版印刷／nendo／アートブ

レーン

[展示・装飾・ファッショント・V・映画]
丹青社／TASAKI／ジーク／七彩／博展

／モデレックス／日本テレビアート／ノリタケ／マナマナ／アラ商事／俄／コム・

デ・ギャルソン／角川大映スタジオ／イッセイミヤケ

[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]
イトキ／キデイランド／シャープ／小糸

製作所／シマノ／タカラトミー／トヨタ自

動車／日産自動車／スズキ／本田技術研

究所／日野自動車／三菱自動車工業／ト

ヨタ紡織／トヨタ車体／ナカバヤシ／日

立製作所／フジタ工業／フェリソ／李

目金属／キヤノン／セイコーエプソン／

ヨー／富士通ゼネラル／東芝／ハリオグラ

ス／河津ケイ／ウノ／ヴァンドームヤマ

ダ／ツインパート工業／鞆工房山本／カ

シオ計算機／三菱電機／日立工機／オリ

バー／マルニ木工／バラマウントベッド

[建築・インテリア・住宅]
オカムラ／カリモクグループ／DNP生活

空間／YKK AP／LIXILグループ

[アニメ・CG・ゲーム]
日本自動車連盟／福岡大学／北里研究所

／特許庁／所沢市役所

[造形・工芸・画廊]
M&Iアート

[その他]
東日本旅客鉄道

[情報通信業]
コロプラ

[映像学科]
[出版・印刷・広告・デザイン事務所]

大日本印刷／凸版印刷／コンセント／ア

オヤマ・フォト・アート

[展示・装飾・ファッショント・V・映画]
金井大道具／歌舞伎座舞台／劇团四季／

スペース／船場／丹青社／TSP太陽／

ディーフレックス／東宝舞台／ドラフト

／七彩／乃村工藝社／パウハス丸栄／

博展／パルコスペースシステムズ／ケイ

ウノ／テレビ朝日クリエイティブ／ディレク

ションズ／バーニーズジャパン／マナマ

ナ／モデレックス

[製造業(食品・化粧品・電器・自動車・家具・文具・雑貨)]
タカラベルモント／クレープストーン／ヤマ

キ／クーリア／三菱電機エンジニアリング

／宝ホールディングス

[アニメ・CG・ゲーム]
任天堂／スクウェア・エニックス／コナ

ミ／カブコン／フロム・ソフトウェア／

Cygames／アカツキ／マッドハウス／

まんだらけ

[情報通信業]
ヤフー／サイバーエージェント／ジャスト

システム／チームラボ／ミクシィ／ビー

ビーメディア／ミツエーリンクス／三菱総研DCS／博報堂アイ・スタジオ

[その他]
京王百貨店／トーエル／星野リゾート／東

日本旅客鉄道／瑞穂町役場／センコー商

事

* 企業名は採用当時のもの。

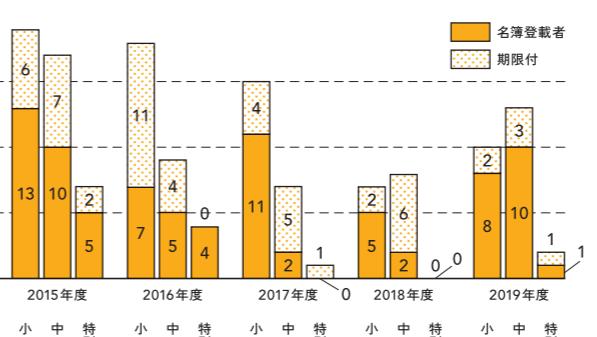
◎ 教員免許状授与件数

2018年度卒業者の免許状授与件数

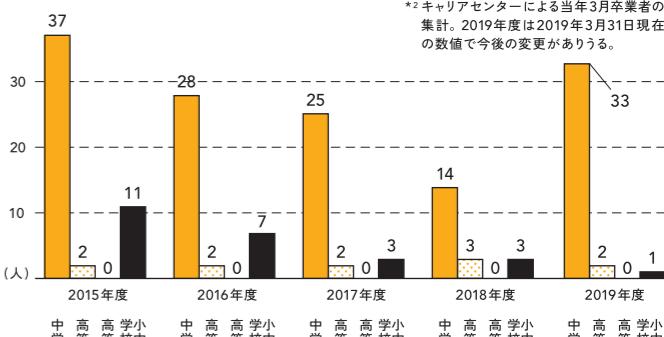
(通学課程) 課程認定学科専攻	授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
		高等学校		中学校	
		美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	5	5	3	0
	油絵学科	24	24	3	0
	彫刻学科	5	5	1	0
	視覚伝達デザイン学科	5	5	0	0
	工芸工業デザイン学科	7	7	6	0
	空間演出デザイン学科	9	9	4	0
	芸術文化学科	2	2	0	0
	デザイン情報学科	0	0	0	0
	科目等履修生	11	9	4	0
	造形学部 小計	68	66	21	0
大学院	美術専攻	7	7	0	0
	デザイン専攻	0	0	0	0
	大学院 小計	7	7	0	0
	合計	75	73	21	0
		73			

◎ 就職状況

過去5年間の東京都教員選考合格者実績推移

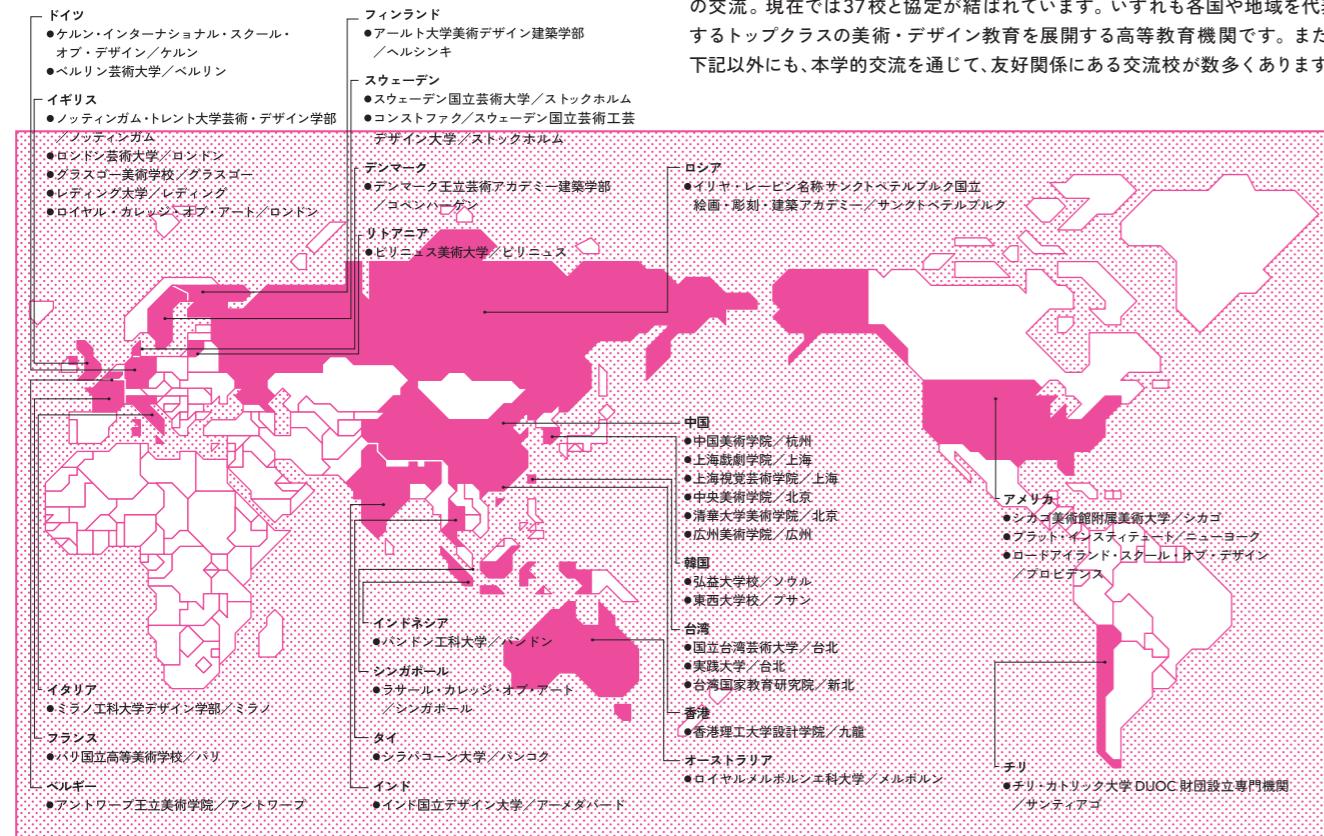


過去5年間の学校教員の採用実績推移



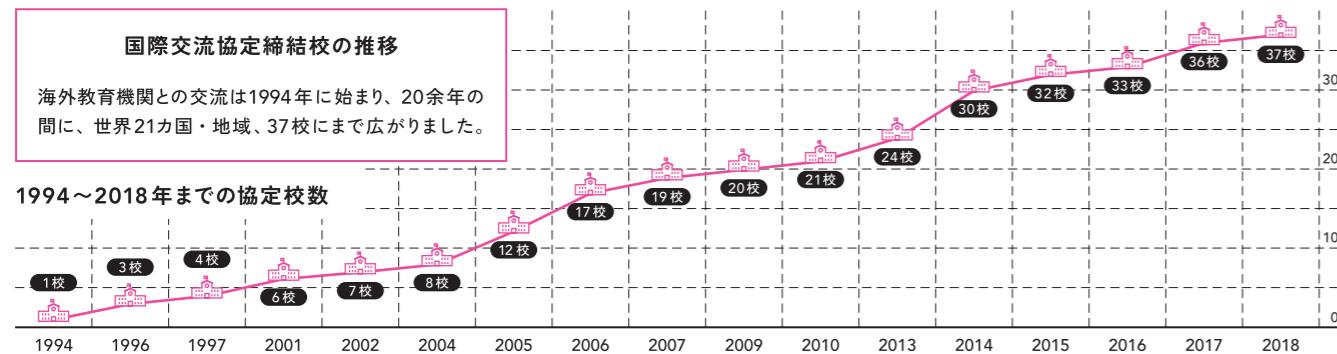
本学は前身である帝国美術学校が東アジアから多くの学生を受け入れたことに始まり、美術・デザインの高等教育機関として先進的に国際交流活動に取り組んできた歴史があります。世界有数の美術・デザイン大学と協定を結び、国際交流プロジェクトの推進や留学生の派遣・受け入れ、学生の海外での活動支援などを実施。さらに、2012年には文部科学省「グローバル人材育成推進事業」において、芸術系大学で唯一の採択校となるなど、学生が世界への視野を広げる環境づくりをいっそう充実させてています。

◎ 海外教育機関との交流協定



◎ 協定(交換)留学制度

協定留学とは、本学と相互交流が締結されている外国の大学・大学院へ、協定留学生として留学する制度です。留学を希望する学生は、学内選考により選抜されます。現在、パリ国立高等美術学校、プラット・インスティテュート、アート大学美術デザイン建築学部、ミラノ工科大学デザイン学部、ベルリン芸術大学、弘益大学校、ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校の7カ国8大学と協定留学を行っており、各々の大学に毎年1、2名の在校生を半年～1年間派遣。協定校からは各校1、2名の学生を受け入れています。留学先で修得した単位は審査を経て本学の単位として認定されるほか、留学先の学费が免除され、海外留学奨学金が支給される経済的なメリットもあります。



◎ 協定留学状況 (2018年5月現在)

過去5年間の協定留学派遣・応募状況

派遣年度	パリ国立高等美術学校		アート大学美術デザイン学部		ミラノ工科大学		プラット・インスティテュート		ベルリン芸術大学		弘益大学校		ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン		ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校	
	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D
2018	0 (2)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (4)	1 (4)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)
2017	1 (3)	1 (2)	0 (1)	2 (4)	0 (0)	1 (2)	0 (1)	1 (3)	1 (2)	2 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)
2016	0 (0)	1 (2)	0 (0)	2 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)	1 (3)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)	0 (0)	1 (3)
2015	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (2)
2014	0 (1)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (5)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	2 (5)	0 (0)	0 (0)				

※上段は派遣者数、下段()内は応募者数。※Fはファイン系、Dはデザイン系からの応募。※NTU(5名)除く。

過去5年間の協定留学受入状況

受入年度	パリ国立高等美術学校	アート大学美術デザイン学部	ミラノ工科大学	プラット・インスティテュート	ベルリン芸術大学	弘益大学校	ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン
2018	日本画 映像	エデ(2)	視デ 基礎デ	油絵 視デ、基礎デ	日本画 油絵、視デ	映像	
2017	彫刻	映像 エデ	基礎デ エデ	油絵 視デ	建築 映像(2)	視デ	基礎デ
2016	彫刻 映像	基礎デ、エデ(2) 映像	基礎デ	映像(2)	基礎デ、建築 彫刻	デ情	空デ
2015	映像(2)	映像(2) 基礎デ	デ情	エデ 映像(2)	建築、空デ 映像	基礎デ	視デ
2014	映像(2)	映像	基礎デ	日本画	建築 空デ	視デ	

◎ 国・地域別留学生数 (2018年5月現在)

本学で学ぶ外国人留学生は、世界9カ国・地域からの429人。下記以外の委託学生、科目等履修生を含めると、世界15カ国・地域から445人の留学生を受け入れています。

国・地域	中国	韓国	台湾	香港	日本	オランダ	イギリス	シンガポール	チリ	合計
造形学部	 									315
	196	95	16	4	0	0	2	1	1	
	88	9	4	0	2	2	0	0	0	
大学院修士課程	 									105
	5	3	1	0	0	0	0	0	0	
	289	107	21	4	2	2	2	1	1	
大学院博士後期課程	 									9
	2	2	0	0	0	0	0	0	0	
	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
合計	289	107	21	4	2	2	2	1	1	429

◎ 武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム

「武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム」は、「語学力やコミュニケーション能力」「主体性や積極性」「異文化理解／アイデンティティの確立」という三つのカテゴリーと15項目からなるプログラムを通して、美術・デザインにおける高度な専門技術と知識を、海外においてもいかんなく發揮できる能力を養成する本学独自の国際教育です。

海外短期留学の促進

海外短期留学プログラムを授業期間外に実施。海外語学研修では英語とフランス語の海外大学での語学コースを設置、条件を満たすと単位を取得することができます。また海外協定校との留学プログラムも随時実施しています。



語学教育の拡充

造形学部の「文化総合科目」「学科別科目」に英語で行う授業を開設。TOEFL／IELTSトレーニングセッション、TOEFL ITPテスト、TOEIC、IPの実施など、語学教育カリキュラムを充実させており、幅広い語学力を身につけることが可能です。



国際交流プロジェクトの充実

海外の教育機関との共同プロジェクトを通して、新たな美術・デザイン教育の方法論を模索するとともに、本学の教育の在り方を世界に発信する「国際交流プロジェクト」。海外を訪れて現地の学生とともに制作やワークショップを行い、国籍や専攻を超えての異文化理解の機会となります。今後は正課授業の留学プログラムとしての実施も進めています。

2018年度採択一覧			
国際交流プロジェクト名	渡航先	代表者名	所属研究室
フェイシングタイム・ムサビ・プロジェクト	オーストリア	伊藤誠	彫刻学科
スイスのデザイン教育と木工芸	スイス	十時啓悦	工芸工業デザイン学科
パベルマヒカ 版と線のちから	メキシコ	内田あぐり、遠藤竜太	日本画学科、油絵学科版画専攻
TAB Project (東京・エックス・バルセロナ)	フランス、スペイン	クリストフ・シャルル	映像学科



◎ 武蔵野美術大学パリ賞

武蔵野美術大学パリ賞(以下:パリ賞)は、1965年に創設され、本学が創立会員として使用権を有する「国際芸術都市」アトリエに1年間入居し、創作活動を認める賞です。その理念は、本学を卒業・修了した卒業生の中から将来の活躍が期待され、国際的視野を持つ者に、副賞として研究費100万円を授与し、ヨーロッパ留学と創作研究活動の機会を与えて支援することにあります。本学は、アトリエ(本館)、アトリエ(別館)の二つのアトリエを専有し、多くの卒業生を派遣してきました。1999年度からは、パリ賞の受賞者2名を各アトリエへ派遣しています。



海外コンペ応募の奨励

海外での活動のきっかけとなる、海外コンペティションへの応募を奨励します。コンペティションの案内、応募方法、取組方法などをきめ細かくサポートするほか、授業内での課題化も検討し、世界へ挑もうとする学生をバックアップしていきます。



世界の学びに触れる特別授業

本学では1950年代より、世界の第一線で活躍するアーティストやデザイナー、研究者を「訪問教授」として招聘してきました。各学科研究室を中心に、訪問教授による合同制作・講評会などを通じて、学生は世界の学びに触ることができます。



◎ 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業【科研費】(学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金)は、全国の大学や研究機関において行われる様々な研究活動に必要な資金を研究者に助成する仕組みの一つで、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対して助成されるものです。

最近の科学研究費助成事業による研究活動(採択状況)

研究代表者	研究課題名	研究年度	研究種目
小戸大輔	骨化順序ヘテロクロニーの揺らぎと制約	2018年度～2019年度	新学術領域研究(研究領域提案型)
小戸大輔	縦合閉鎖から読み解く頭部骨数の減少進化	2018年度～2020年度	基盤研究(B)
森敏生	体育実践における創発的な学習活動の指導と評価の一体化	2018年度～2020年度	基盤研究(C)
小戸大輔	耳小骨X	2018年度～2019年度	挑戦的研究(萌芽)
高橋陽一	共通教化と教育勅語	2018年度	研究成果公開促進費(学術図書)
高山穰	日本の伝統装飾のアルゴリズム化とデジタル造形技術の併用による設計支援とその展開	2017年度～2019年度	基盤研究(C)
相原優子	ユダヤ系アメリカ文学に於ける身体的可傷性の考察	2017年度～2019年度	基盤研究(C)
志田賜子	アメリカにおける映画をめぐる文化現象と憲法：映画検閲から文化芸術助成まで	2017年度～2020年度	基盤研究(C)
三代純平	芸術系グローバル人材就労支援のための調査研究：芸術系元留学生のライフストーリー	2017年度～2020年度	若手研究(B)
松本隆	ロッピア工房による施釉テラコッタ彫刻の制作技法研究～陶片の定量分析と再現実験	2017年度	奨励研究
圓山憲子	CWL不変量の応用に関する総合的研究	2016年度～2018年度	基盤研究(C)
牧野良三	舞台美術から見た日本のオペラ文化史的考察	2016年度～2018年度	基盤研究(C)
白石美雪	近代日本における職業としての音楽評論家の成立過程	2016年度～2019年度	基盤研究(C)
小澤智子	移民の習い事・教え事の継承・活用・変容の基礎研究－方法論的ナショナリズムの相対化	2016年度～2019年度	基盤研究(C)
北徹朗	初年次教育としての体育実技・演習の教育効果に関する研究	2016年度～2018年度	基盤研究(C)
小林昭世	デザインの基礎としての視覚化研究	2016年度～2019年度	基盤研究(C)
田中千賀子	大正期における新教育の実践と学校園	2016年度～2018年度	若手研究(B)
宮原ひろ子	トゥファ堆積物を用いた宇宙線強度変動復元手法の開拓	2015年度～2017年度	挑戦的萌芽研究
高橋陽一	昭和戦前中期における日本精神論の興隆と退潮	2015年度～2018年度	基盤研究(C)
杉浦幸子	乳幼児の心理的発達に関わる美術館における鑑賞プログラムの分析と開発	2014年度～2017年度	挑戦的萌芽研究
相原優子	ユダヤ系アメリカ文学に於けるイスラエル表象と平和のレトリックの考察	2014年度～2017年度	基盤研究(C)
岡崎乾二郎	相対運動描画ロボットによる媒体的認識の発現	2014年度～2016年度	基盤研究(B)
高山穰	手続型モデリングと3Dプリンタを併用した装飾部材の設計支援とその応用に関する研究	2014年度～2016年度	基盤研究(C)
森敏生	体育科教育におけるスポーツ活動システムの自律的形成と体育授業の実践的方法論	2013年度～2015年度	基盤研究(B)
宮原ひろ子	過去4万年間の宇宙線強度変動・太陽圈構造と地球環境変動	2013年度～2017年度	基盤研究(B)
小林昭世	視覚化表現の統合に関する研究：ダイアグラムの拡張	2013年度～2015年度	基盤研究(C)
黒川弘毅	清水多嘉示が遺した資料の研究－近現代美術史の周辺と専門的美術教育について	2013年度～2015年度	基盤研究(C)
三澤一実	造形批評力の獲得を目指した校種間交流鑑賞プログラムの開発と普及システム作り	2013年度～2015年度	基盤研究(C)
白石美雪	ジョン・ケージにおけるジャポニズムとオリエンタリズムの再検討	2012年度～2015年度	基盤研究(C)
シャルル・クリストフ	山口勝弘のデジタルアーカイブ作成：日本メディアアート生成史の研究および記録化	2012年度～2015年度	基盤研究(C)
高橋陽一	近代日本の学問形成・教科書編纂と国学	2011年度～2014年度	基盤研究(C)
三代純平	留学生の就労支援環境構築のための基礎研究－元留学生のライフストーリー研究	2011年度～2014年度	若手研究(B)

◎ 共同研究

本学教員の研究活動を一層推進させることを目的として、教員が特定の研究課題について自主的にプロジェクト・チームを編成し共同で行っている研究に対し、大学は審査を行った上で研究費を助成しています。

共同研究助成一覧(平成30年度)

研究代表者	研究課題	概要
伊藤真一	フィリピンソルソン地域における持続可能なハンディクラフトデザイン研究	開発途上国における持続可能な産業振興の研究。フィリピン共和国の地方都市、ソルソン州の小規模手工芸生産者の製品群を対象として原材料入手、生産、流通、の持続的なサイクルが可能となる製品デザインとその価値を伝達するデザイン手法を研究する。
黒川弘毅	清水多嘉示の美術教育と武蔵野美術学校II	清水多嘉示が残した資料のうち、戦後期の武蔵野美術学校時代に焦点を当て、その制作活動と美術教育を含む広範な社会活動への関与を検証する。本学が創立90周年を迎える2019年に、本学美術館において「清水多嘉示資料展」第3期を開催する。
戸田裕介	20世紀後半の彫刻概念の再構築—「量塊」に対する「被覆」を中心に—	本研究は、主に20世紀後半以降の日本の彫刻について、量塊性に依拠する造形にその成立基盤を置くものとは異なる、構造を被覆する表面によって成立する彫刻の系譜を確認するものである。それを出発点に、より広範な彫刻の構造と表面の関係や表面そのものの意味と機能を再考し、新たな彫刻的認識の導出を目指す。

◎ 産官学共同プロジェクト

既存の価値観の再考や新たな価値の創出が求められる時代の流れの中、本学では企業や地方自治体等との協力体制のもと、多彩なテーマによる産官学共同プロジェクトを実施しています。全学的なサポートのもとでいっそう力強く産官学共同プロジェクトを展開していくため、規約の整備を行い、受け入れ窓口として研究支援センター(RPC/Research Promotion Center)を設置しています。美術大学に脈々と根付く「課題発見力」と「思考力」、そして個々の専門領域での「表現力」を起点とし、産官学共同プロジェクトを通して社会と繋がり、社会から学び、社会貢献を果たすことを目指しています。

産官学共同プロジェクト一覧 (2018年度)

- 『わらアートまつり』わらオブジェ制作等業務
新潟県新潟市 + 基礎デザイン学科
- 『UMARTs2018 うまからうまれるアート展』
公益財団法人馬事文化財団 + 芸術文化学科
- 『将来モビリティーデザイン研究』
株式会社ブリヂストン + 工芸工業デザイン学科
- 『立川駅西地下道壁画アート化事業におけるワークショップ型壁画制作業務委託』
立川駅西地下道壁画アート化事業におけるデザイン作成及び完成披露イベント業務委託
東京都立川市 + 視覚伝達デザイン学科
- 『若い世代が考えるカーライフを「楽しく」、「便利に」、「快適に」するデザイン性に優れた商品』に関する研究
株式会社オートバックスセブン + 工芸工業デザイン学科
- 『Eastman Chemical 社製トライタンの用途開発と新しい価値の創造』
長瀬産業株式会社 + 工芸工業デザイン学科
- 『いすみ市大学生等連携地域活性化事業』
千葉県いすみ市 + 共通デザイン・教職課程研究室 + デザイン情報学科
- 『10~15年先の食を中心とした健やかな生活の為のプロダクト』
デロンギ・ジャパン株式会社 + 工芸工業デザイン学科
- 『Braun × 武蔵野美術大学』 ブラウンハウスホールド(デロンギ・ジャパン株式会社) + 工芸工業デザイン学科ID研究室
期間 : 2018年9月3日～10月22日(7週間)
- 参加学生は工芸工業デザイン学科インダストリアルデザイン(ID)コース3・4年生を中心とした18名。7月のオリエンテーションを経て、9月にはフォン氏を特別講師に迎え、5日間のデザイン講義を展開しました。「未来をどのように予測するか?」をテーマにしたグループディスカッションや、アイディエーションを効果的に行う方法などについて講義を行いながら、各学生がコンセプト設定やスケッチ、最終デザイン案のブラッシュアップに取り組みました。10月26日の最終プレゼンテーションでは、フォン氏を交えた審査で7人のファイナリストを選出し、一人暮らしをしていても母の料理の味を再現することを家族と一緒にいる安心感が得られる「MoCo」を考案したチェン・ユーウェンさんが、「ブラウンハウスホールド大学賞」(最優秀賞)を受賞しました。



1

2

田中桂太／責任者、プロジェクト担当教授
1969年生まれ、武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科ID専攻を卒業後、東芝に入社。同社デザインセンターを経て、2002年シナジーデザインを設立。2006年本学専任講師に着任。様々な協力企業との産学協同研究により、実践的な指導を行っている。

1 フォン氏を迎えたデザイン講義の様子。調理家電に限らず、食に関する領域にまで広げることで自由な発想を引き出し、消費者が重視していることを掘り下げ、価値あるデザインを追求することが求められた
2 最終プレゼンテーションでは会場に学生によるモックアップも展示された

その他の主な学外とのコラボレーション(2018年度)

- 『3331 ART FAIR 2019』
3331 ART FAIR 運営事務局 + 油絵学科
- 『上野の森美術館大賞展』
上野の森美術館大賞展係 + 油絵学科
- 『事業提案プレゼンテーション』「たまほくのひなまつり」
多摩北部医療センター + 小平市立第十二小学校 + 視覚伝達デザイン学科
- 『電車でつなごう! 西地下道アートプロジェクト in 立川』
立川市地域文化課 + 視覚伝達デザイン学科
- 『まちで楽しむ6: 学生が輝けるまち小平』
小平市大学連携協議会 + 視覚伝達デザイン学科
- 『日刊工業新聞社機械デザイン賞』
日刊工業新聞社 + 基礎デザイン学科
- 『みたかFabコンテスト』
三鷹市 + 三鷹商工会 + 株式会社まちづくり三鷹 + 基礎デザイン学科
- 『ANBD(Asia Network Beyond Design) 展』
ANBD(Asia Network Beyond Design) 協会 + 基礎デザイン学科
- 『グッドデザイン賞審査会』
公益財団法人日本デザイン振興会 + 基礎デザイン学科
- 『GOOD DESIGN AWARD』
公益財団法人日本デザイン振興会 + 基礎デザイン学科
- 『AXIS トークセッション』
株式会社AXIS + 基礎デザイン学科
- 『日本デザインコミッティー企画展』
日本デザインコミッティー + 基礎デザイン学科
- 『ホスピタルギャラリー』
徳島大学病院 + 基礎デザイン学科
- 『懐中時計礼讃展』
日本デザインコミッティー + 基礎デザイン学科
- 『川越むかわごえ』
NPO法人川越戻の会 + 建築学科
- 『川越むかわ昭和』
NPO法人川越戻の会 + 建築学科
- 『棟戸水車実測調査』
国分寺市ふるさと文化財課 + 建築学科
- 『見学会「SUBTLE」』
外務省 + 基礎デザイン学科
- 『シンポジウム「今、日本の建築を考える」』
森美術館 + 基礎デザイン学科
- 『講演「CHINA HOUSE VISION」』
中国TENCENT + 基礎デザイン学科
- 『朝日広告賞審査』
朝日新聞社 + 基礎デザイン学科
- 『東京ADC賞審査』
東京アートディレクターズクラブ + 基礎デザイン学科
- 『CSデザイン賞審査』
中川ケミカル + 基礎デザイン学科
- 『JAPAN HOUSE LONDON 開館レセプション』
外務省 + 基礎デザイン学科
- 『太郎吉戻デザイン会議』
アートチャレンジ滝川 + 基礎デザイン学科
- 『JAPAN HOUSE LONDON 開館レセプション』
外務省 + 基礎デザイン学科
- 『講演「VISUALIZE AND AWAKEN」』
DESIGN LECTURE SERIES 事務局 + 基礎デザイン学科
- 『HOUSE VISION 2018 BEIJING EXHIBITION』
HOUSE VISION 実行委員会 + 基礎デザイン学科
- 『マニラ、ラサール大学講演』
株式会社良品計画 + 基礎デザイン学科
- 『都立広尾高等学校国語科との連携「見る、考える、詠む」』
都立広尾高等学校 + 芸術文化学科
- 『保育園美術館プロジェクト』
社会福祉法人陽光福祉会あおぞら保育園 + 日比野設計幼児の城など + 芸術文化学科
- 『キャラクターデザインプロジェクト』
小平市立小平第一中学校 + 芸術文化学科
- 『赤ちゃんといっしょに美術館!』
武蔵野市立吉祥寺美術館 + 芸術文化学科
- 『所沢市立三ヶ島中学校「中学生とデザインを考える」』
所沢市立三ヶ島中学校 + 芸術文化学科
- 『富士見丘中学校 × 武蔵野美術大学「Feeling展」』
富士見丘中学校 + 芸術文化学科
- 『び会講演会「異校種・他教科との連携」』
び会 + 芸術文化学科
- 『あかちゃんが美術館と仲良くなる鑑賞プログラム～びじゅつかんといっしょ～』
国際国際美術館 + 芸術文化学科
- 『未就学児とアート鑑賞を楽しむ～身近な素材を活用して～』
国際国際美術館 + 芸術文化学科
- 『造形・美術教育力養成講座 越境し、拡張する美術鑑賞』
公益社団法人日本美術教育連合 + 芸術文化学科
- 『国立市青柳中央会創立55周年記念文化祭記念特別対談「芸術の持つ力・鑑賞方法を学ぶ」』
国立市青柳中央会 + 芸術文化学科
- 『対話による美術鑑賞講習会』
あしかが対話型鑑賞の会 + 芸術文化学科
- 『企画展「ぶんぶん文房具展」関連プログラム 6910キャンバスライブペインティング! ムサビ生とスケッチ! ふしぎな文房具の写真を撮ろう』
多摩六都科学館 + 芸術文化学科
- 『影刻と対話法IV「搖さぶられる作意」』
府中市美術館 + 芸術文化学科
- 『展覧会「岡本太郎と『今日の芸術』展』』
アーツ前橋 + 芸術文化学科
- 『特別展「ぐんまの自然の「いま」を伝える」の連携』
群馬県立自然史博物館 + 芸術文化学科
- 『...and Action! Asia#05 — 映画・映像専攻学生交流プログラム』
国際交流基金アジアセンター + 映像学科
- 『中国西安の若手映像クリエーター育成支援としての映像製作ワークショップ』
欧亚学院 + 映像学科
- 『子供向け映像製作ワークショップ』
法人企画グループ社会連携チーム + 映像学科
- 『小山町フィルムクリエーターズアワード2018』
NPO法人小山町フィルムコミッショング(株式会社JDN) + 映像学科
- 『...and Action! Asia#05 — 映画・映像専攻学生交流プログラム』
国際交流基金アジアセンター + 映像学科
- 『Skypeによる出前授業』
愛知県立千種高校 + 教養文化・学芸員課程研究室
- 『いいあいムサビプロジェクト：親子de国際交流』
日野市立子ども家庭支援センター、子育て支援グループ・多文化ひろばあいあい + 言語文化研究室
- 『にっぽん多文化共生発信プロジェクト』
カシオ計算機株式会社 + 言語文化研究室
- 『外国人のための防災教材開発』
小平市国際交流協会 + 言語文化研究室

◎ 他大学との連携

充実した学術研究環境を形成するために、本学では国外の大学や様々な機関との交流・提携を積極的に推進しています。国内の大学では、早稲田大学との学術交流や、多摩アカデミックコンソーシアム(TAC)に参画し、図書館の相互利用や単位互換制度などが実現しています。また、東京工業大学との教育研究交流、美術系大学連携協議会、小平市大学連携協議会(愛称・こだいらブルーベリーリーグ)との連携協定等も結んでいます。2017年4月には電気通信大学と、9月には津田塾大学との連携・協力の推進を図るため、包括連携協定を締結しました。

早稲田大学との学生交流制度

早稲田大学と教員・学生の交流、共同研究の実施、図書館の相互利用などを含む学術交流に関する協定を締結し、2001年度から学生交流を行っています。学部2年生以上を対象とした特別聴講学生の制度では、早稲田大学が提供する科目を選択履修でき、修得した単位は本学の単位として、卒業所要単位数に算入することができます。

◎ 公開講座

社会貢献の一環として、2017年度より実技系ワークショップや教養系講座など、広く地域の方々に向けた公開講座を開講しています。武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジで開講しているのが、異なる分野で活躍するフロントランナーを招いて、これからの新しい美大の可能性を発信する公開講座「イノベーションとアート&デザインの可能性」です。第四次産業革命のような新しい技術革新とどのように向き合い、イノベーションを生み出していくかを重要な課題として捉え、日本の産業界の動向、今日本に求められている人材、先端的な技術など様々な角度から今後の新しい美大の姿を模索していきます。

◎ 美術・デザインの普及・振興

美術・デザインの普及・振興を目的として、本学では多彩な取り組みを行っています。「旅するムサビプロジェクト」をはじめ、美術・デザインを学びたい高校生に、大学の教育研究について広く知っていただくための活動にも取り組んでいます。



「旅するムサビプロジェクト」(通称: 旅ムサ)は、本学の学生が主体となって全国の小中学校を訪れ、「対話型鑑賞」「ワークショップ」「公開制作」そして、中学校を美術館に変える「ムサビ!」の四つの企画を中心に行われる美術教育活動を取り組みます。2017年には10年以上続く実績が評価され「2017年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

◎ 地域フォーラム

地域フォーラム「アート&デザイン」は、武蔵野美術大学のエクステンション活動の一環として、地域社会へ文化的なメッセージを発信し、地方との結びつきを模索するという目的で、武蔵野美術大学と同校友会の共催により全国各地で開催しています。

第24回武蔵野美術大学地域フォーラム

「アート&デザイン2018福岡」
創造の穴~クリエイティブがイノベーション!?

2018年6月30日(土)~7月1日(日)
会場:FUKUOKA growth next

第一部	【CMディレクター 中島信也トークショー】 『すべてムサビのせいさ~八女・千里・武蔵美! ぼくのなかの創造と想像~』
第二部	【ワークショップ】 『段ボールクラフト』親子で動物をつくろう! 講師: 松岡勇樹
	【公開制作】 すずきらな公開制作「黒板アート」/ 黒板アーティスト: すずきらな
	【鼎談 バネルディスカッション】 創造の穴「イノベーションを起こすクリエイティブとは?」 ~エンターテイメント、起業、美術教育それぞれのイノベーション~ ゲスト: リリー・フランキー、若杉浩一、長澤忠徳 / コーディネーター: 中島信也
作品展示	「中島信也CM絵コンテ」「松岡勇樹段ボールクラフト」

◎ 課外講座

美術・デザインの専門大学としての特性を生かした自由なテーマで、国内外のアーティストやデザイナー、研究者を招いた課外講座を随時開催しています。講演、対談、シンポジウム、ライブなど形式は多彩で、訪問教授の講演や毎年恒例となったシリーズも開講されています。これらの講座は、学科を越えて広く学内に公開されています。

2018年度 課外講座一覧

『映画「花籠/HANAGATAMI」を見る・大林宣彦に出会い未開の地平を切り開く／革新性を超えて』 講師: 大林宣彦(映画作家)
『INSTIGATOR #021』 講師: ホンマタカシ(写真家)
『マーク・フェル、最近の活動について』 講師: マーク・フェル(アーティスト)
『テリー・テムリットのアート&ミュージックの活動』 講師: テリー・テムリット(自営業者、メディア製作)
『屠場の歴史と現在(屠場見学の事前勉強会を兼ねて)』 講師: 栄木裕、宮崎元気(芝浦屠場職人)
『メディア変換における創作と連鎖: 「絵本 化鳥」とクリエイター』 講師: 中川学(イラストレーター、瑞泉寺住職)、泉屋宏樹(グラフィックデザイナー、版画家)、青木香(映像ディレクター)、山口智(ミュージシャン) 協力: 泉鏡花記念館(金沢文化振興財団)
『Architecture and Humans / 建築と人間』 講師: アシフ・カーン(建築家)
『発見／発明／デザイン—必要は発明の母か? 発明は必要の母か?—』 講師: 日詠明男(造形作家)
『ミキモトジュエリーその永遠的魅力』 講師: 太田典子(ジュエリーデザイナー)
『旅する植物人間』 講師: 二名良日(アーティスト、野外活動家、キャンプインストラクター)
『ドキュメンタリー映画「縄文号とパクール号の航海」上映と鼎談「若者と探検、冒険、旅」』 講師: 前田次郎(作家)、佐藤洋平(民俗学研究)、水本博之(映画監督)
『イメージ、オブジェクト、ジャーニー: Dunhill and O'Brienのコラボレーション作品』 講師: マーク・ダンヒル(アーティスト、フリーランス・コンサルタント、教育者)
『縄文×能×武蔵美—風の姿を謡い、大地の力を舞う』 講師: 山中が晶(能楽師)、am(覆面アーティスト)
『イアン・ウー氏の作品とその制作』 講師: イアン・ウー(画家、ラサー・カレッジ・オブ・アート教授)
『阿波の箱まわし~三番叟とエビス、人形浄瑠璃の故郷を語る~』 講師: 辻本一英、中内正子、南公代(阿波の箱廻し研究者、芸人)
『イメージ史~感じたことを絵や像にすることの変遷~』 講師: 松本夏樹(本学、立命館大学、大阪芸術大学 各大学講師、映像史研究者)
『年老いた王に飛び越えられて(Flown Over by an Old King)』 講師: レイフ・エルグレン(アーティスト)
『自作について』 講師: Yuji Agematsu(美術家)
『プロダクトと建築のあいだ』 講師: 二俣公一(空間・プロダクトデザイナー)
『バンドネオン×ムサビ生~視・聴・感~』 講師: 早川純(バンドネオン演奏家)
『第21回 講義集会』 講師: 館鼻則孝(アーティスト、NORITAKA TATEHANA ディレクター)

◎ 学生生活サポート

学生たちが日々の生活における不安を感じることなく、安心して学生生活を送れるように、こころのケアや健康相談、住まい探しなど、様々な支援を行っています。

学生相談室

学生相談室では、学生生活を送る中で出てくる様々な不安や悩み、困っていることを聞き、解決のためのサポートをしています。授業、進路・就職、友人・家族関係、心やからだに関する悩みや、性についての悩みやトラブル、人生や性格のこと、災害時のこころのケアなどの幅広い相談に、臨床心理士、精神科医、教員相談員が対応しています。

住居サポート

「株式会社共立メンテナンス」に業務委託し、学生が大学周辺で安心して暮らせるアパートや推薦寮の紹介を行っています。また、2014年4月より、本学学生のみが利用できる専用学生寮を開設しました（管理・運営：株式会社共立メンテナンス）。朝・夕2食付で、寮長・寮母が常駐する寮内にはアトリエルームを完備し、学びに集中できる環境を用意しています（学生寮は留学生と女子学生専用です）。

アルバイトの紹介

(財)学生サポートセンターが指導する(株)ナジック・アイ・サポートの求人情報提供サイト「学生アルバイト情報ネットワーク」を活用して、本学学生に向けたアルバイトの紹介を行っています。

障害者学修支援

本学は、障害を理由とする差別の解消を目的に、障害のある学生（保証人含む）からの要望により、個々の学生の状態・特性等に応じて、適切な支援を提供する取り組みを行っています。

共通の支援内容*

- 窓口における支援 文章による説明、筆談、書類代筆
- 授業及び講座、研修における支援 最前列確保、授業開始時間の遅れ配慮（移動時間）
休講情報のメール配信
- 担当教員・講演者への支援事項の伝達、協力要請 支援による部外者の同席、補聴システムの使用

聴力障害*

- 授業における支援 ノートテイク配置、休講情報のメール配信

肢体不自由*

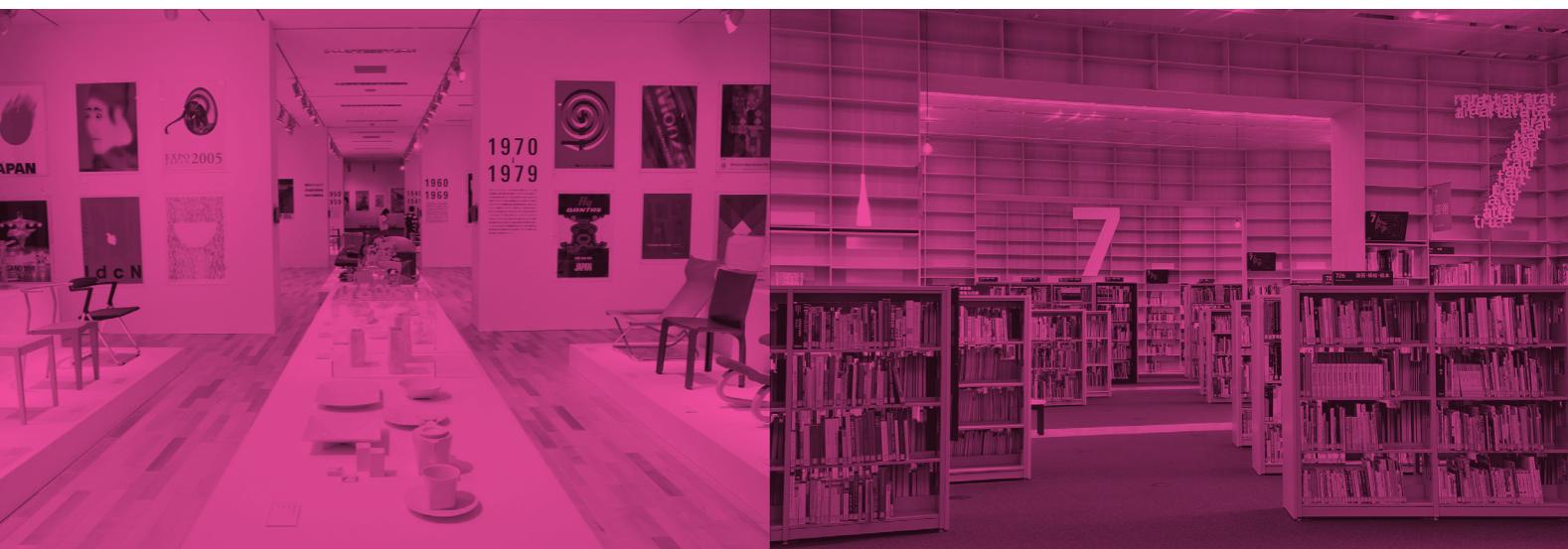
- 授業、講演、研修教室の支援 車椅子移動可能教室への変更、移動への補助支援

精神障害・発達障害・その他障害、入学試験関連の支援

- 別途相談

*上記以外の支援を希望する場合は別途相談。

1967年に「美術資料図書館」として開館した「武蔵野美術大学 美術館・図書館」は、大学美術館と大学図書館としての二つの大きな機能を持ちながら、さらに民俗資料室とイメージライブラリーを有する「美と知」を統合したキャンパスのシンボルです。美術館、図書館、博物館機能が一体化した「知の複合施設」として、図書資料、美術・デザイン作品、民俗資料、映像資料など、それぞれ属性や扱いの異なる様々な資料群を有機的に結びつけて横断的に活用することができます。



美術館活動

美術やデザイン、工芸品などの収集・保存、データベースの構築、展覧会の企画・開催、図録の編集・発行などを行っています。特に、約3万点におよぶポスターと約400脚の近代椅子など4万点以上の収蔵品は、デザイン研究の基礎資料として社会的にも大きな意義を持つコレクションです。また、展覧会の企画には本学教員も参加しており、実践的な学習の場として学生も積極的に参加するなど、大学美術館ならではの体制が整っています。会期中には講演をはじめ、様々なイベントを開催しています。

図書館活動

美術・デザインを中心約32万冊の図書資料、約5,000タイトルの和・洋雑誌、各大学の研究紀要、展覧会カタログ、映像資料などを収集・保管しています。特に、5,000冊を超える絵本コレクションや、近代デザイン研究のためのグラフィックデザインコレクションは、学術的な研究資料として内外の注目を集めています。ICT技術を活用したブックタッチや無線LANを導入した学習空間を整備し、多摩アカデミックコンソーシアムという大学協力機構を活用することで、近隣の6大学の図書館を自由に利用できます。



イメージライブラリーの活動



民俗資料室の活動



造形研究センターの活動

美術館棟2階にあるイメージライブラリーは、図書館のセクションとして、約2万点の映像資料を所蔵し、館内視聴と一部資料の貸出を行っています。映画史を学ぶ上で欠かせない作品や、一般に見る機会の少ない美術史上の映像作品は貴重な教育資源です。また、上映会などの企画開催を通じて、研究・制作への還元を目指しています。

13号館にある民俗資料室は、9万点に及ぶ民俗資料の収集・保存・公開を行っています。民俗学者・宮本常一氏を中心とした生活文化研究会による資料をはじめ、日本觀光文化研究所の寄贈資料や、写真家・菌部澄氏による郷土玩具のコレクションも貴重な資料です。これらは同ギャラリーにて順次、展示・公開しています。

文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を得て、2008年に設置された造形研究センターは、専門領域と学科の枠を超えた横断的かつ先進的な研究を行う全学共同の研究施設です。美術館・図書館が所蔵する図書資料及び美術・デザイン資料の保存活用・公開のためのデータベース構築を進めています。

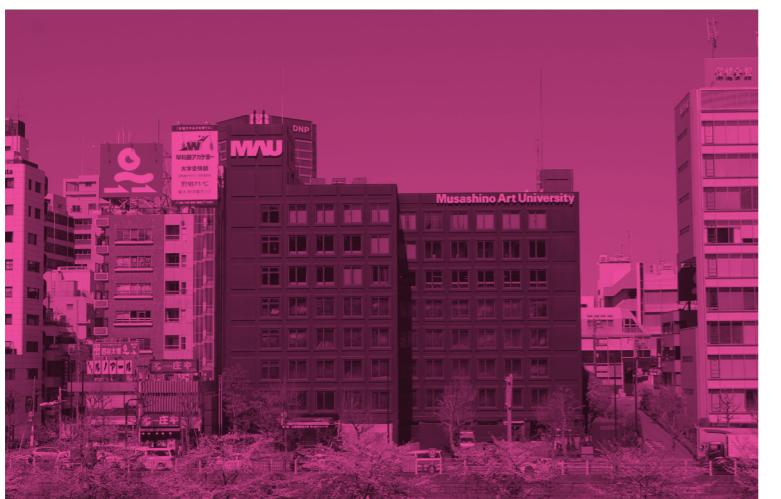
施設・組織



鷹の台キャンパス

東京の郊外、玉川上水が流れる小平・鷹の台に本学のメインキャンパスがあります。文化勲章を受章した建築家・故芦原義信名誉教授のマスタープランのもとに設計・建設され、1961年に開設されました。約11万m²の敷地に、法人本部・造形学部・造形構想学部・大学院が置かれています。

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736



市ヶ谷キャンパス

2019年4月に開設した市ヶ谷キャンパスは、「市ヶ谷」駅より徒歩3分と、アクセスに恵まれた都心キャンパスです。造形構想学部クリエイティブノベーション学科の3・4年次生、大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティビリーダーシップコースの教育研究拠点となります。

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 1-4



吉祥寺校

吉祥寺校は、1929年帝国美術学校として創設された本学発祥の地であり、東京都武蔵野市に位置しています。本学の造形を中心とする大きな教育ネットワークの一翼を担っている通信教育課程、校友会事務局、また、武蔵野美術大学出版局が置かれています。

〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7



三鷹ルーム

JR中央線・総武線「三鷹」駅より徒歩4分の好立地にある三鷹ルームは、通信教育課程週末スクーリングの「三鷹教室」として、また大学や各学科主催による展示発表、公開講座、インフォメーションなど、ムサビと社会を結ぶ窓口として機能しています。

〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-19-3 武蔵野YSビル6F

FACILITIES



gallery αM

1988年、武蔵野市吉祥寺に「ギャラリーαM」を開設以来、現代美術における新人発掘と、その発表の場を提供してきました。2009年4月からは、ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有するアーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに展示企画の場を提供することを目的として、東京・馬喰町にノンプロフィットギャラリー「gallery αM」を開設しました。都市の恒常的空间に、発表とキュレーションのダイナミックな関係を創出します。※写真：αMプロジェクト2018「給と、vol.4 千葉正也」(撮影：木奥恵三)



デザイン・ラウンジ

2012年4月、東京ミッドタウン・デザインハブ内に、デザインを基軸とした情報発信拠点として開設されました。「ラウンジ」とは、社交室・休憩室や待合室を指す言葉ですが、「武蔵野美術大学が社会と社交する場・談話する場」という「集う」イメージと「デザインハブから社会へ出発(発信)する場」という「起点」のイメージをコンセプトとしています。公開講座や展示、企業・団体と連携した研究会やイベントを企画・実施し、これからデザインやデザイン教育について議論しながら美術大学の社会貢献力を強め、社会と大学とが新しいかたちで繋がる環境を創出しています。



奈良寮

奈良県奈良市にある「奈良寮」は、学生、教職員、校友が広く利用できる福利厚生施設です。貴重な文化遺産が多く残る京都・奈良への研究旅行の拠点として、奈良市内の、正倉院にほど近い絶好の場所にあります。この建物は、日本美術院に所属し、国宝や重要文化財の修復に大きな功績を残した故新納忠之介氏の旧宅で、この地方に独特な大和棟高塀造の民家です。本学では、その本来の美しい姿をとどめながら、快適に宿泊・滞在できるよう、保存と活用を両立した改修復元を行っています。



五箇山「無名舎」

富山県南砺市にある「無名舎」は、本学有志を中心とした民芸研究グループ「無名会」から寄贈された合掌造りの民家を、研究と保養のための施設として改修した福利厚生施設です。越中五箇山の大自然とその風土に培われた合掌造りの民家は、1996年、岐阜県白川郷とともに世界文化遺産にも加えられました。また近年には、平家の落人の伝統を引き、和紙の産地としても知られる地元、旧平村地区との交流も行われています。



武蔵野美術大学出版局

吉祥寺校に設置されている武蔵野美術大学出版局は、ユニバーシティ・プレスとして、大学の教育・研究を支援し、大学と社会を結ぶ機関として、学術文化に関わる広範囲な出版活動を展開しています。特に通信教育課程の教科書群は、美術やデザインへの知的・技術的欲求に応えるテキストとして、広く一般に向けて刊行されています。2004年には「MAUライブラリー」を創刊し、特色ある書籍を刊行しています。また近年では、大学のグッズ「MAUグッズ」シリーズの製作・販売も手がけています。



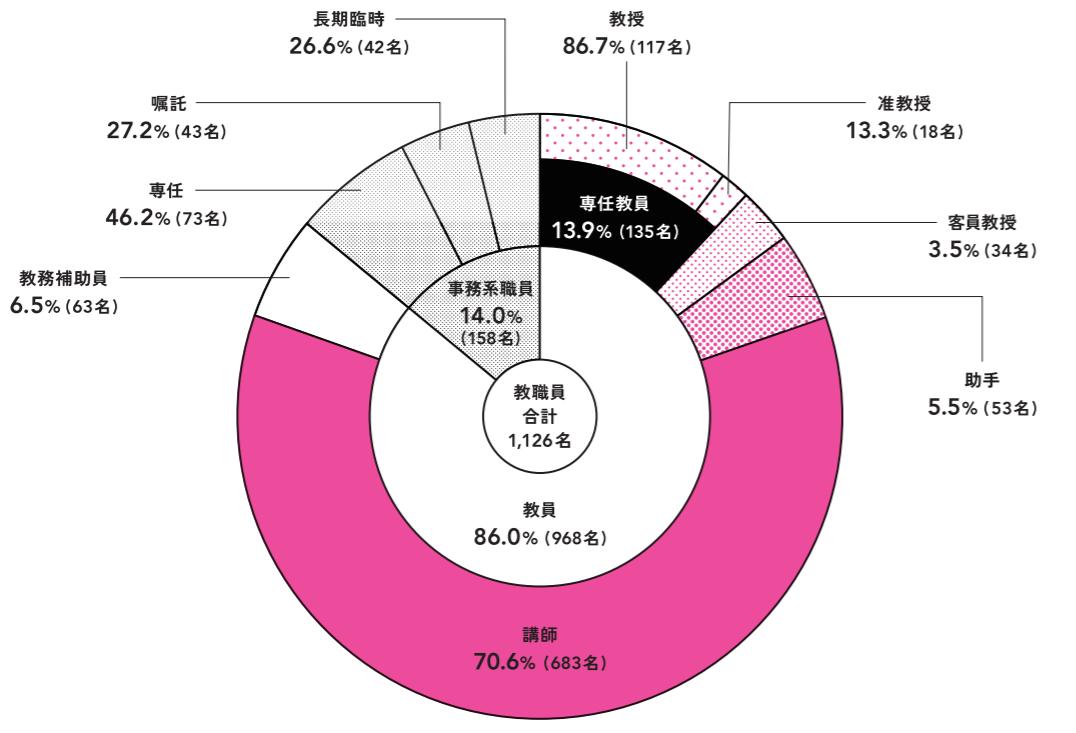
武蔵野美術大学校友会

武蔵野美術大学校友会は、武蔵野美術大学を卒業(修了)した卒業生全員が参加・運営する組織です。卒業または修了と同時に、全員が会員となります。当会は会員相互の親睦、母校への寄与、後輩への支援、社会への貢献を軸に活動しています。

教職員・役員

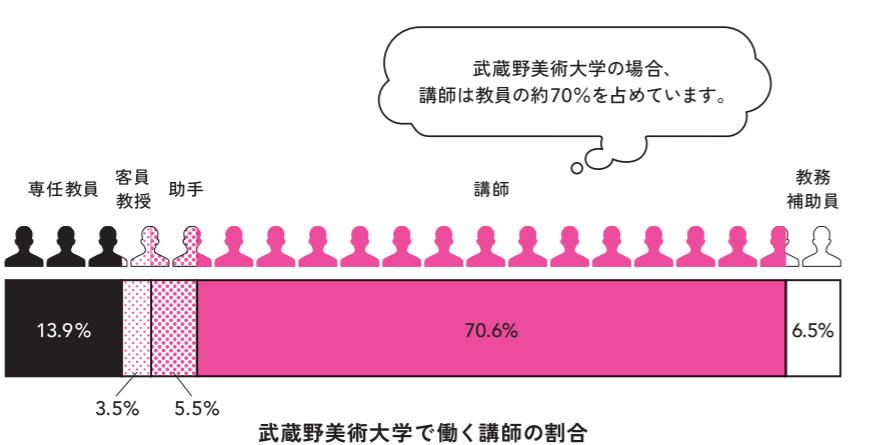
◎ 教職員数 (2018年5月1日現在)

本学で美術・デザインを指導する専任教員の多くが、第一線のアーティスト、デザイナーとして活躍中であり、一般教育などでも様々なジャンルで活躍を続ける研究者を専任教員として採用しています。美術、デザインといった専門分野以外の教員の多くを専任教員として積極的に採用しているのは、美術系大学の中での本学の特徴のひとつです。また、教育研究の発展を推し進め
るため、客員教授の拡充も図っています。



武蔵野美術大学で働く教職員とその内訳

武蔵野美術大学の場合、
講師は教員の約70%を占めています。



講師の割合

多様化・専門化する美術、デザインの現場において、専任教員がカバーしきれないようなジャンルを補うためにも、講師を数多く配置しているのが本学の特徴です。講師は他大学等に本務がある者や、講師を専業とする者だけでなく、幅広く社会で活躍しているアーティストやデザイナー等の専門家にも指導を依頼しています。

FACULTY AND STAFF

◎ 教員一覧 (2019年3月31日現在)

日本画学科	彫刻学科	谷幸	和田喜夫	◎教授	黒澤誠人	林浩平	松木典子
◎教授(主任) 尾長良範	◎教授(主任) 黒川弘毅	塚本純久	◎教授(主任)	小林昭世	黒田順子	林容子	渡辺真太郎
		飛山裕幸	小泉誠	柴田文江	GOTOAKI	姪井理子	
		鳥海修		板東孝明	小柳淳嗣	平野智紀	教養文化・芸芸課程
◎教授 内田あぐり	◎教授 伊藤誠	中村成一	◎教授 鈴木明	菱川勢一	鶴賀雄二	堀越洋一郎	◎教授(主任)
西田俊英	西尾彩	五十嵐久枝	◎教授 吉田慎悟	宮島慎吾	坂口トモユキ	宮崎匠	白石美雪
山本直彰	三沢厚彦	橋詮宗	◎客員教授 梅原真	吉田慎悟	柴田康太郎	村田良二	結城康太朗
◎准教授 岩田壮平	◎准教授 富井大裕	花崎攝	◎客員教授 梅原真	霜田誠二	霜田誠二	JOU	◎教授 今岡謙太郎
		北條みぎわ	◎講師 白井史人	白井史人	白井史人	菅沼比呂志	小幡正敏
		堤口裕美	◎客員教授 志田陽子	高橋明洋	高橋明洋	神野善治	志田陽子
◎客員教授 遠藤利克	◎客員教授 北澤昭	本庄美千代	◎客員教授 秋山孝子	瀧井吉晴	瀧井吉晴	閑野吉晴	閑野吉晴
栗林隆	岡崎乾二郎	丸山幸夫	◎客員教授 有馬トモユキ	竹中義明	竹中義明	富松保文	新見隆
土屋禮一	西尾康之	武藤努	◎客員教授 アストリッド・クライン	安斎利洋	安斎利洋	井口博美	圓山憲子
◎講師 荒井経	◎講師 今村有策	室賀清徳	◎客員教授 土屋公雄	土屋公雄	土屋公雄	佐藤淳一	廖赤陽
牛島達治	大野綾子	森田健一	◎客員教授 横河健	横河健	横河健	白石学	長澤忠徳
熊澤未来子	オノラ・ルイジ	柳下祐介	◎客員教授 小野生	小原穂	小原穂	森山明子	森山明子
酒井祐二	吉川義盛	アズビー・ブラウン	◎客員教授 織咲誠	根間太作	根間太作	○准教授 荒川歩	○准教授 小森大輔
阪本トクロウ	桑名紗衣子	吉田謙二	◎講師 野村叔子	野村叔子	野村叔子	井上尚司	宮原ひろ子
松谷千夏子	杉浦藍	面出薰	◎客員教授 橋本直明	橋本直明	橋本直明	講師 「教養文化」	
吉田有紀	高柳恵里	石井秀幸	◎客員教授 橋田純夫	橋田純夫	橋田純夫	逢坂卓郎	赤井紀美
中野浩二	橋田康司	伊藤寛	◎客員教授 井上雅	井上雅	井上雅	井上浩義	井上浩義
丸山重春	中野直三郎	稻木真一	◎客員教授 赤井有希	赤井有希	赤井有希	内田智	内田智
伊藤真一	十時啓悦	稻木真一	◎客員教授 國潤一	國潤一	國潤一	狩野有希	狩野有希
寺山祐策	大山俊二	トースティー	◎客員教授 北沢裕久	北沢裕久	北沢裕久	赤池学	北沢裕
柳山祐和	中原俊三郎	内山敬子	◎客員教授 國潤一	國潤一	國潤一	國土潤	國土潤
川口起美雄	西川聰	大森晃彦	◎客員教授 安藤伸行	安藤伸行	安藤伸行	明間大樹	明間大樹
小林李亘	山中一宏	田中桂太	◎客員教授 奥野公章	奥野公章	奥野公章	新井俊樹	新井俊樹
諏訪敦	吉川聰	小野直紀	◎客員教授 川邊學	川邊學	川邊學	石浦克	高根成紀
高浜利也	白井敬尚	角田陽太	◎客員教授 玉川博章	玉川博章	玉川博章	大嶋浩	竹田志保
丸山直文	陸内利博	上條桂子	◎客員教授 森山衣起	森山衣起	森山衣起	竹中真也	竹中真也
水上泰財	新島実	亀森一好	◎客員教授 中島淳雄	中島淳雄	中島淳雄	岡部哲也	千葉将希
吉川民仁	西本企良	川端富生	◎客員教授 西澤弘行	西澤弘行	西澤弘行	沖介	張兵
西本企良	古堅真彦	北川陽史	◎客員教授 蓮池公威	蓮池公威	蓮池公威	範田聰	筒井亜湖
◎准教授 小林耕平	寺藤彰子	君塚賢	◎客員教授 平尾始	平尾始	平尾始	小野生	長倉洋海
元久治	中野豪樹	川口有子	◎客員教授 野村昌太郎	野村昌太郎	野村昌太郎	角裕美	葉山雅
石塚英樹	中野豪樹	林浩平	◎客員教授 木下謙一	木下謙一	木下謙一	菊地俊公	原民樹
町田久美	岩田綾	大野晃彦	◎客員教授 草野剛	草野剛	草野剛	藤本俊明	藤本俊明
森本千絵	内山純	清水早苗	◎客員教授 河野内泰	河野内泰	河野内泰	草野剛	草野剛
森本千絵	萩原泰顕	近藤哲雄	◎客員教授 藤田総宣	藤田総宣	藤田総宣	真島麗子	真島麗子
森本千絵	森本千絵	杉山純	◎客員教授 後藤茂	後藤茂	後藤茂	小西俊也	小西俊也
鬼束恵司	森本千絵	小倉順介	◎客員教授 松井勝正	松井勝正	松井勝正	坂本杜平	佐々木幸弥
◎客員教授 遠藤彰子	片岡豊	鈴木親	◎客員教授 松野良則	松野良則	松野良則	佐藤篤司	佐藤篤司
久根育	李ナレ	片岡豊	◎客員教授 森田衣起	森田衣起	森田衣起	里見慶	[学芸員課程]
土方明司	石井友人	北川陽子	◎客員教授 林井良子	林井良子	林井良子	篠崎晃一	安齋順子
町田久美	泉原昭人	吉田貴子	◎客員教授 柴田英喜	柴田英喜	柴田英喜	柴田英喜	岡島聰子
◎講師 赤塚祐二	一色映理子	宇井真紀子	◎客員教授 新保誠香	新保誠香	新保誠香	新保誠香	岡島聰子
遠藤竜太	小峰貴芳	小峰貴芳	◎客員教授 井上英香	井上英香	井上英香	井上英香	岡島聰子
寺山祐策	北川陽子	立花文穂	◎客員教授 吉田隆	吉田隆	吉田隆	杉下城司	古田鳴智子
柳山祐和	吉田貴子	常山未央	◎客員教授 吉永晴彦	吉永晴彦	吉永晴彦	高橋明洋	高橋明洋
川口起美雄	吉田貴子	戸井田雄	◎客員教授 板屋綾	板屋綾	板屋綾	瀧本往人	塚本純久
小林李亘	吉田貴子	近藤勉	◎客員教授 河野内泰	河野内泰	河野内泰	瀧本往人	畠橋早苗
諏訪敦	吉田貴子	代島多枝	◎客員教授 高島敦彦	高島敦彦	高島敦彦	畠橋早苗	畠橋早苗
高浜利也	吉田貴子	高橋晃	◎客員教授 田口明美	田口明美	田口明美	玉井美由紀	玉井美由紀
丸山直文	吉田貴子	武石正宣	◎客員教授 洪江桂子	洪江桂子	洪江桂子	照井亮	照井亮
水上泰財	吉田貴子	田原唯之	◎客員教授 山本太郎	山本太郎	山本太郎	杉田嶽司	古田嶽司
吉川民仁	吉田貴子	常山未央	◎客員教授 吉田隆	吉田隆	吉田隆	高橋明洋	高橋明洋
西本企良	吉田貴子	戸井田雄	◎客員教授 吉永晴彦	吉永晴彦	吉永晴彦	瀧本往人	塚本純久
◎准教授 小林耕平	吉田貴子	近藤勉	◎客員教授 板屋綾	板屋綾	板屋綾	畠橋早苗	畠橋早苗
元久治	吉田貴子	代島多枝	◎客員教授 高島敦彦	高島敦彦	高島敦彦	畠橋早苗	畠橋早苗
石塚英樹	吉田貴子	高橋晃	◎客員教授 田口明美	田口明美	田口明美	玉井美由紀	玉井美由紀
町田久美	吉田貴子	武石正宣	◎客員教授 梅田紀慶	梅田紀慶	梅田紀慶	高谷智	高谷智
森本千絵	吉田貴子	田原唯之	◎客員教授 中野希大	中野希大	中野希大	中野希大	中野希大
森本千絵	吉田貴子	常山未央	◎客員教授 仲俣暁太	仲俣暁太	仲俣暁太	仲俣暁太	仲俣暁太
森本千絵	吉田貴子	戸井田雄	◎客員教授 江崎聰子	江崎聰子	江崎聰子	江崎聰子	江崎聰子
森本千絵	吉田貴子	近藤勉	◎客員教授 垣内恵美子	垣内恵美子	垣内恵美子	垣内恵美子	垣内恵美子
森本千絵	吉田貴子	代島多枝	◎客員教授 三浦均	三浦均	三浦均	三浦均	三浦均
森本千絵	吉田貴子	高橋晃	◎客員教授 嘉藤笑子	嘉藤笑子	嘉藤笑子	嘉藤笑子	嘉藤笑子
森本千絵	吉田貴子	武石正宣	◎客員教授 金子隆一	金子隆一	金子隆一	金子隆一	金子隆一
森本千絵	吉田貴子	田原唯之	◎客員教授 河内晋平	河内晋平	河内晋平	河内晋平	河内晋平
森本千絵	吉田貴子	松田豊一	◎客員教授 官浪辰夫	官浪辰夫	官浪辰夫	官浪辰夫	官浪辰夫
森本千絵	吉田貴子	内藤衡	◎客員教授 菊池宏子	菊池宏子	菊池宏子	上田あい	上田あい
森本千絵	吉田貴子	内藤衡	◎客員教授 岡太地	岡太地	岡太地	岡太地	岡太地
森本千絵	吉田貴子	内藤衡	◎客員教授 小野村隆男	小野村隆男	小野村隆男	相原優子	相原優子
森本千絵	吉田貴子	内藤衡	◎客員教授 青石太郎	青石太郎	青石太郎	ボール・カンダサミ	ボール・カンダサミ
森本千絵	吉田貴子	内藤衡	◎客員教授 飯田鉄	飯田鉄	飯田鉄	藤田克己	藤田克己
森本千絵	吉田貴子	内藤衡	◎客員教授 沢山遼	沢山遼	沢山遼	渡辺真太郎	渡辺真太郎
森本千絵	吉田貴子	内藤衡</td					

クレイグ・シスマン		身体運動文化	明珍素也	上条寛	神藤修	◎講師	細井真子	坂上桂子	[油絵学科]	阿部英幸	紫牟田伸子
近藤ゆう子	◎教授(主任)	神瀬佐子	須藤友香子	早川祐太	竹田精一郎	○講師	松山亞実	高橋英幸	森山漸	伊藤仁	高橋世織
更科加代子	青沼裕之	猪熊兼樹	結城康太朗	渡辺えつこ	田中行彦	赤井紀美	森山漸	伊藤仁	今井庸介	田中洋江	
高橋恵		海老澤模奈人	谷浩二	足立純子	山岡俊樹	諸橋泰樹	今井庸介	田中洋江	大家泰仁	中島智	
田辺章	◎教授	恵美千鶴子	内藤衛	新川徳彦	新川徳彦	加藤健二	大冢泰仁	中島智	弘中智子	弘中智子	
長尾主税	森敏生	共通影塑	中川岳二	池永一夫	【造形総合科目】	木村繁之	坂上桂子	堀越洋一郎	木村真由美	前多令子	
中川智視		北澤憲昭	林宏	伊藤恵夫	足立正	木村真由美	高橋英幸	堀越洋一郎	井上智史	小島隆三	松永康
中村優治	◎准教授	楠根圭子	藤井常雄	今村純子	井上智史	植木基博	松永康	植木基博	小森琢己		
成瀬俊一	北徹朗	脇谷徹	藤田恵美	上田卓司	上田卓司	星晃	小森琢己	星晃	小川明日香		
松本修		小石絵美	江森敏夫	上田和秀	清水健太郎	大野彩	小西俊也	大野彩	大竹紀美代		
森山敬子	◎講師	櫻庭美咲	藤原紀沙	白井新太郎	【デザイン情報学科】	松本希	山本明比古	白井新太郎	鈴木希帆	朝比奈ゆり	
	飯島学	下野玲子	戸田裕介	藤原啓克	鬼丸正明	鬼丸正明	角めぐみ	神瀬佐子	奥村梨枝子	石垣貴子	
[フランス語]	荻山幸子	鈴木希帆	松田崇	水田徹	小幡一雄	太田守重	山本明比古	奥村梨枝子	鬼丸正明	氏家真清	
今村純子	鬼丸正明	平見子	○准教授	三行英登	加藤義夫	星晃	角めぐみ	和田雄一	高橋宗良	東後行	
小幡一雄	越部清美	高橋幸次	山本一弥	金田泰滋	大竹紀美代	大野彩	山崎連基	渡邊洋	高橋幸次	深澤涼子	
勝田千恵子	牛来明日香	高橋真作	宗像重幸	鶴岡明美	星晃	大野彩	山本明比古	河村要	高橋幸次	小川明日香	
杉村裕史	里見悦郎	瀧井直子	◎客員教授	高野正晃	桂華希	桂華希	角めぐみ	大野彩	高橋幸次	小西俊也	
竹田千穂	白井巧	田中知佐子	櫻井かえで	多和圭三	北沢昌代	桂華希	角めぐみ	大原大次郎	高橋幸次	山本明比古	
中原暁彦	高橋宗良	塚本磨充	【教職課程】	北沢昌代	杉山貴洋	桂華希	角めぐみ	高橋幸次	奥村梨枝子	角めぐみ	
森本謙子	中田賛一	築地正明	有福一昭	杉山貴洋	川本雅子	桂華希	角めぐみ	落合勉	鬼丸正明	和田雄一	
森本文彦	早川みどり	鶴岡明美	川本雅子	北沢昌代	高野正晃	桂華希	角めぐみ	渡邊洋	高橋幸次	渡邊洋	
[ドイツ語]	ハラード・ボルスター	寺本美奈子	寺本美奈子	杉山貴洋	多和圭三	桂華希	角めぐみ	河村要	高橋幸次	高橋幸次	
平田知行	戸田昌子	長谷川さち	長谷川さち	北沢昌代	北沢昌代	桂華希	角めぐみ	大野彩	高橋幸次	高橋幸次	
酒井能成	本田雅一	萩原哉	人見崇子	杉山貴洋	杉山貴洋	桂華希	角めぐみ	大原大次郎	高橋幸次	高橋幸次	
深澤一輝	丸山伸也	原浩史	高野一	近藤嘉男	川本雅子	桂華希	角めぐみ	高橋幸次	奥村梨枝子	高橋幸次	
柳勝己	望月康司	福島修	松本隆	田中千賀子	高野正晃	桂華希	角めぐみ	落合勉	鬼丸正明	和田雄一	
	矢田部英正	藤井明	箕輪亜希子	坂本明子	坂本明子	桂華希	角めぐみ	渡邊洋	高橋幸次	渡邊洋	
[イタリア語]	築岡陽子	藤崎悠子	葉山登	坂本明子	坂本明子	桂華希	角めぐみ	河村要	高橋幸次	高橋幸次	
尾河直哉	横森茂樹	松井勝正	共通デザイン・	澤村さち子	澤村さち子	桂華希	角めぐみ	大野彩	高橋幸次	高橋幸次	
中矢慎子	吉野由布子	松崎照明	教職課程	渡辺典子	渡辺典子	桂華希	角めぐみ	大原大次郎	高橋幸次	高橋幸次	
横田太郎	宮崎匠	○教授(主任)	通信教育課程	洪江桂子	洪江桂子	桂華希	角めぐみ	高橋幸次	高橋幸次	高橋幸次	
[中国語]	造形文化・美学美術史	森美智代	大坪圭輔	島森功	島森功	桂華希	角めぐみ	高橋幸次	高橋幸次	高橋幸次	
何旭	朴亨國	共通絵画	◎教授	西川陽子	西川陽子	桂華希	角めぐみ	高橋幸次	高橋幸次	高橋幸次	
[韓国語]	◎教授	◎教授(主任)	伊藤毅	杉山貴洋	杉山貴洋	桂華希	角めぐみ	高橋幸次	高橋幸次	高橋幸次	
張河林	木田拓也	大浦一志	高橋陽一	上原幸子	上原幸子	桂華希	角めぐみ	高橋幸次	高橋幸次	高橋幸次	
チョン・ホソン	北澤洋子	三澤一実	金子伸二	金子伸二	平晃子	桂華希	角めぐみ	高橋幸次	高橋幸次	高橋幸次	
[日本語]	田島正之	原一史	◎客員教授	高橋宗良	高橋宗良	桂華希	角めぐみ	成田達哉	高橋幸次	高橋幸次	
佐藤正則	玉蟲敏子	山本靖久	潘微	古川日代子	古川日代子	桂華希	角めぐみ	森田博一	高橋幸次	高橋幸次	
西内沙恵	松浦寿夫	潘葉一清	◎講師	田中克明	津森暁史	桂華希	角めぐみ	渡辺典子	高橋幸次	高橋幸次	
福村真紀子	佐藤正則	一色映理子	[共通デザイン]	田中道彦	望月重太朗	桂華希	角めぐみ	山本博一	高橋幸次	高橋幸次	
[スペイン語]	◎客員教授	伊藤史	榎本倫顕	中島純子	中島純子	桂華希	角めぐみ	松本敏裕	高橋幸次	高橋幸次	
豊田唯	樺山塩一	今井俊介	角文平	吉川民仁	吉川民仁	桂華希	角めぐみ	山口正己	高橋幸次	高橋幸次	
	松原茂	齋藤典久	川口光一	比良友佳理	比良友佳理	桂華希	角めぐみ	渡辺典子	高橋幸次	高橋幸次	
			福本薰	清水恒平	福本薰	桂華希	角めぐみ	小金沢智	高橋幸次	高橋幸次	

◎ 法人役員・大学役職等 (2019年3月31日現在)

法人役員	浅見和之	富松保文	青木正夫	下村千早	事務統轄: 木村修三	キャリアチームリーダー: 津野誠人
◎理事長	上野敬子	森敏生	島崎信	滝沢具幸	国際チームリーダー(兼): 磯崎秀雄	
天坊昭彦	増古憲一	白尾隆太郎	向井周太郎	山本唯博	入試チームリーダー(入試担当): 田村仁	
	井上搖子	安部泰人	竹山実	田中秀穂	入試チームリーダー(入試広報担当): 富山香里	
◎理事・学長	中島信也	◎通信教育課程課程長	高市美千佳	高市美千佳	[芸術文化学科]	
長澤忠徳	部谷京子	白尾隆太郎	田中栄作	椎名純子	足立圭	
	松岡	白尾隆太郎	田村善次郎	小松誠	足立圭	
◎理事	天坊昭彦	◎美術館・図書館館長	橋本梁司	相沢昭男	相沢昭男	
木村修三	長澤忠徳	赤塚祐二	網戸通夫	寺原芳彦	研究支援チームリーダー(兼): 千羽一郎	
富松保文	木村修三	赤塚祐二	寺原芳彦	寺原芳彦	IRチームリーダー(兼)	
大坪圭輔	富松保文	○造形研究センター	小池一子	鈴木民保	広報チームリーダー(兼): 井上雅裕	
中島信也	白賀洋平	センター長:	真田日呂史	長尾重武	[美術館・図書館グループ]	
白賀洋平	市川政憲	赤塚祐二	那須勝哉	今井良朗	美術館・図書館グループ長: 上野敬子	
古河直純	大沼信之	朝倉重治	三浦耐子	三浦耐子	美術チームリーダー: 平出哲朗	
宮崎晋	谷口正和	名譽教授	小石新八	鈴木久雄	図書チームリーダー: 沢田雄一	
向山卓二	船曳鴻紅	根岸正	小谷育弘	池田良二	監査チームリーダー: 野中道彦	
	吉河直純	寺田秀夫	長谷川義	後藤吉郎	施設監査チームリーダー(施設管財担当): 福本章	
◎監事	宮崎晋	加茂銘	及部寛人	柏木博	施設監査チームリーダー(設備担当): 橋本英明	
小川昭夫	向山卓二	堤浪夫	森江健二	村岡弘章	施設監査チームリーダー(長補佐): 加藤徹	
幸島祥夫		泉修二	小井土満	経理チームリーダー: 佐藤真也	新学科・市ヶ谷キャンパス準備事務室長(兼): 戸谷成雄	
		千々岩英彰	佐久間保明	遠藤彰子	新学科・市ヶ谷キャンパス準備事務室(兼): 戸谷成雄	
評議員	磯辺辰夫	横溝健志	甲田洋二	長沢秀之	[学生支援グループ]	
大坪圭輔	長澤忠徳	水尾博	酒井道夫	井戸谷成雄	学生支援グループ長: 浅見和之	
篠原規行	大西慶憲	森豪男			学生支援グループ長補佐: 加藤徹	
白尾隆太郎	◎学長補佐	駒込繁芳	立花直美		学生支援グループ長: 森田徳彦	
鈴木久雄	遠藤竜太	勝井三雄	川口直次		学生支援グループ長: 高田立子	
赤塚祐二	篠原規行	田邊三郎助	齋藤昭嘉		学生生活チームリーダー: 毛利貴之	

◎ 学務事務組織 (2019年3月31日現在)

事務統轄: 木村修三	キャリアチームリーダー: 津野誠人
国際チームリーダー(兼): 磯崎秀雄	
入試チームリーダー(入試担当): 田村仁	
入試チームリーダー(入試広報担当): 富山香里	

学校法人武蔵野美術大学は、2014年3月26日に開催された理事会において、2014年度から2021年度までの第1次中長期計画を策定した。同中長期計画では、18歳人口が安定的に推移する2014年度から2017年度までの4年間を第一期、安定期を経て再び減少を始め減少速度が加速する2018年度から2021年度までの4年間を第二期と位置づけ、明確なミッション、ビジョンのもと、第一期の間にビジョン実現の基礎を確立することを目指している。

2018年度は第二期初年度に当たり、事業計画に重点課題として設定した主要8項目について検討・実施を進めた。その進捗状況は、以下のとおりである。

1. 教育研究組織の改編等

P.43

- 教育組織については、2019年4月に新たに造形構想学部及び大学院造形構想研究科を設置することとした。また、通信教育課程では、2020年度からの新たなコース再編を準備し、工芸工業デザイン学科の学生募集を停止することとした。

2. 教育力の強化

P.43

- 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の一体的整備を実施。さらに、学生の学修成果について検証を行うためのアセスメント・ポリシーの検討に着手した。
- 教職再課程認定に伴い、全学的な教職課程の質保証に資するよう申請段階から教職課程専門委員会を中心に検討審議する体制を整備した。

3. 教育環境充実に向けたキャンパス整備

P.43

- 2019年4月に新設された造形構想学部クリエイティブイノベーション学科の1、2年生の校舎となる15号館を、鷹の台キャンパスに建設した。
- 「創造的思考力」を実社会で応用するための具体的な方法を学ぶ新たな教育研究拠点として市ヶ谷キャンパスを開設することとし、JR市ヶ谷駅から徒歩3分の物件を整備した。

4. 美術館・図書館機能の充実

P.43

- 美術資料及び民俗資料データベース新システムの運用を開始した。
- 造形研究センターでは、2014年度文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業において採択された「日本近世における文字印刷文化の総合的研究」研究プロジェクトの最終年度にあたり、展覧会や図録を通して研究活動を公開した。

5. 学生支援の充実・強化

P.45

- 「武蔵野美術大学地方出身学生支援奨学金規則」を制定し、2019年度からの奨学金制度の拡充を図った。
- 内定学生と就活年次生が学生同士で気軽に質問や相談が可能なプログラムとして「就活なんでも相談会」を実施した。

6. 研究支援・社会連携推進、 美術教育の普及、美術文化の振興

P.45

- 更なる科研費申請・採択に向けて、新規申請者の発掘、スタッフの研修参加、間接経費の活用、研究者へのコンプライアンス教育の徹底等を行った。
- 昨年度に引き続き、産官学共同・委託研究の実施数の増加と質の向上に向けて、契約関連及び知的財産の管理・活用の仕組作りを進めた。
- 11月に大学所在地である東京都小平市と包括連携協定を締結し、3月には埼玉県所沢市と文化芸術等における連携・協力を関する協定を締結した。

7. 広報・IR活動の強化

P.46

- 新学部・新研究科に特化した媒体制作や広告出稿として、位置情報を活用したバナー広告、競合一般大学と想定した模試受験者へのピンポイントDMの送付、webメールの送付等を行った。
- 従来の造形学部志願者への説明会に加えて、新学科独自の説明・相談会を開催した。また新たな志願者層の開拓も念頭に高校訪問を強化した。

8. 組織力・大学運営力の強化

P.46

- 労働関係諸法令の改正に対応し、教員組織、職員組織の弾力化を図るため、就業規則をはじめとした規則の見直し、改正を行った。
- 職員の能力底上げを図るべく職員研修を行い、優秀な人材を採用するため、採用プロジェクトチームを編成して職員採用を行った。

9. その他の主な取組

P.47

1. 教育研究組織の改編等

教育組織については、2019年4月に新たに造形構想学部及び大学院造形構想研究科を設置することとし、既存学科の定員変更とあわせて2018年4月に文部科学省へ届出を行った。美術を総合的な人間形成をもつて成るものと考える本学伝統の教育理念に基づく造形教育によって身に付けた力を基盤としつつ、新学部・研究科では、そうした総合的な力を、美術・デザインの領域に限らず、実社会のさまざまな場で発揮し、社会問題の解決や新たな価値を創出できるような柔軟な発想力や構想力を有する人材、すなわち創造的思考力をもつて社会的イノベーションに寄与する人材として育成することを目指している。

造形構想学部にはクリエイティブイノベーション学科を新設し、造形学部から映像学科を移設する。また、造形構想研究科には造形構想専攻を設置し、新設のクリエイティブリーダーシップコースと造形研究科から移設される映像・写真コースを置く。映像学科及び映像・写真コースについては、同学科・コースにおける発足時からの理念を再確認し、新学部・研究科として位置づけ、教育内容の拡張によるさらなる充実と発展を期すこととなる。

通信教育課程では、2020年度からの新たなコース再編を準備し、工芸工業デザイン学科の学生募集を停止することとした。

2. 教育力の強化

- (1) 3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の一体的整備を実施、造形学部ディプロマ・ポリシー実現に対応させる形でカリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを策定した。さらに3つのポリシーに基づき、学生の学修成果について検証を行うためのアセスメント・ポリシーの検討に着手した。
- (2) 教職再課程認定に伴い、全学的な教職課程の質保証に資するよう申請段階から教職課程専門委員会を中心に検討審議する体制を整備し、文部科学省指摘事項にも迅速に対応し認定を受けた。

3. 教育環境充実に向けたキャンパス整備

鷹の台キャンパス

- (1) 4月に新設された造形構想学部クリエイティブイノベーション学科の1、2年生の校舎となる15号館を建設した。無線LAN、アトリエ教室へのモチーフ動線、ホワイトボード仕様の可動間仕切りなど、様々な授業に対応した施設として整備されている。
- (2) 昨年3月のバス転回場の整備に続き、バス会社2社の運転手の休憩所を建設した。これにより、今後の増便にもつながることが期待できる。
- (3) エレベーター棟及び7号館・8号館バリアフリー対応工事の2019年度内の竣工に向けて、設計及び施工者選定を行った。
- (4) 学科配当教室等の集約による教育効果を高めることを目的とした再配置計画を進めため、ワーキングチームを中心に多目的な用途に対応した校舎の検討を進めた。
- (5) 芦原義信名誉教授が設計した本学の建築物が、2008年に選定されたアトリエ棟(現：4号館)に続き、2017年度 DOCOMOMO Japan「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」として選定された。

市ヶ谷キャンパス

- (1) 「創造的思考力」を実社会で応用するための具体的な方法を学ぶ新たな教育研究拠点として市ヶ谷キャンパスを開設することとし、6、7階を大学院造形構想研究科造形構想専攻クリエイティブリーダーシップコースの研究、開発実験の場として、8階を事務室兼図書室として、それぞれ整備した。
- (2) 1階については株式会社良品計画と協働で、新しい価値づくりの拠点となる「共創スタジオ」の2019年7月中旬オープンに向けた整備工事に着手した。
- (3) 2021年度の造形構想学部クリエイティブイノベーション学科の学生受け入れに向けて、ワークショップや産学プロジェクトに対応した施設及び工房などの整備を検討した。

4. 美術館・図書館機能の充実

- (1) 美術館では年間9回、民俗資料室では1回の展覧会を開催し、延べ65,000人を超える入場者があった。また、展示関連のイベントの他、公開型ワークショップや多摩地区の小中学校との連携プログラムを開催し、当館の活動を具体的に社会に発信することに努めた。

2018年度に美術館で開催した展覧会

2018年4月4日(水)～4月28日(土)

『平成29年度 武蔵野美術大学 造形学部卒業制作・大学院修了制作優秀作品展』

2018年5月21日(月)～8月10日(金)

『ドローイング—内なる水脈の解放—』

2018年8月18日(土)～8月19日(日)

『リトグラフ 石のまわりで』

2018年9月3日(月)～9月28日(金)

『リトグラフ 石のまわりで』ポートフォリオ・プロジェクト展』

2018年9月3日(月)～9月28日(金)	『新島実と卒業生たち—そのデザイン思考と実践 1981-2018』
2018年10月15日(月)～11月10日(土)	『田中克明 プロジェクト型デザイン活動の軌跡』
2018年10月15日(月)～11月10日(土)	『閑野吉晴ワンダースペース』
2018年11月1日(木)～12月18日(火)	『和語表記による和様刊本の源流』
2018年11月26日(月)～12月18日(火)	『助手展 2018 武蔵野美術大学助手研究発表』
2018年度に民俗資料室で開催した展覧会	
2018年10月15日(月)～11月30日(金)	『民俗資料室ギャラリー展示(26)「東北の木地玩具—遊びと祈りの造形—』』

(9) 造形研究センターでは、2014年度文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業において採択された「日本近世における文字印刷文化の総合的研究」研究プロジェクトの最終年度にあたり、美術館において「和語表記による和様刊本の源流」展を開催し、その研究活動を公開とともに、研究成果の主要部分を同展図録に取りまとめ発信した。



展覧会の様子。木版印刷による書物の紹介のほか、会期中は講演会や観世流能楽師・林宗一郎氏一座による能楽公演も実施



- (2) 美術館では校友会(四美大アラムナイ)との連携企画「ムサビキッズプログラム 親子鑑賞会」を、近隣の小学生親子を対象に実施した。
- (3) 美術資料及び民俗資料データベース新システムの運用を開始した。
- (4) 図書館は年間約135,000人、イメージライブラリーは約37,000人が利用した。市ヶ谷キャンパス開設(2019年4月)にともない、同キャンパス図書館(蔵書: 約5,000冊)の開館準備を実施した。
- (5) 図書館には国内外から年間約10,000人の見学者が来館した。
- (6) 美術館、図書館、民俗資料室、イメージライブラリー各所蔵品の授業活用、及び「研究・授業特別閲覧室」「研究用映像視聴室」等の館内各施設の授業利用が増加した。
- (7) 各種館蔵コレクションのデジタル化とアーカイブ整備のうち、大辻清司コレクションでは「大辻清司アーカイブフィルムコレクション」を刊行し、「中村とうようコレクション」ではデジタル化音源を含めて学内利用できるデータベースを公開した。
- (8) 当館所蔵の近代椅子コレクション約350脚の3Dデータや椅子の詳細なデータなどを閲覧できるiOSアプリ「近代椅子コレクション ムサビのイス3D」をリリースした。

3D画像化された椅子の回転、拡大や光源を変化させることができるほか、制作者、メーカー、サイズ、解説など詳細なデータも閲覧可能

5. 学生支援の充実・強化

- (1) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)への対応を継続し、支援決定後の学生のフォロー等支援体制を強化した。また、より多様な学生支援を推進するため、キャンパスソーシャルワーカーの導入を検討した。
- (2) 「武蔵野美術大学地方出身学生支援奨学金規則」を制定し、2019年度からの奨学金制度の拡充を図った。
- (3) 「武蔵野美術大学兄弟姉妹入学金免除要領」に基づき、6名の2018年度新入生に対し入学金免除を行った(19ページ参照)。
- (4) 2020年度からの第2学生寮設置に向けて検討を行った。
- (5) 内定学生と就活次生が学生同士で気軽に質問や相談が可能なプログラムとして「就活なんでも相談会」を実施した。

6. 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興

1 研究支援の推進

- (1) 科学研究費補助金において新規採択5件(転入4件含む)・継続17件の合計22件、研究成果公開促進費1件、国際共同研究事業1件を獲得した(29ページ参照)。更なる科研費申請・採択に向けて、新規申請者の発掘、スタッフの研修参加、間接経費の活用、研究者へのコンプライアンス教育の徹底等を行った。
- (2) 11月に日本学術振興会より科学研究費補助金における実地検査を受け、法令やガイドラインに抵触する事項や改善を要する事項は「なし」と評された。
- (3) 産官学共同・委託研究を22件実施した(30ページ参照)。そのうち市区町村からの依頼が4件、企業・団体からの依頼は18件であった。昨年度に引き続き、研究の実施数の増加と質の向上に向けて、契約関連及び知的財産の管理・活用の仕組作りを進めた。また、取組をより奨励するために、昨年制定した内規をもとに、教員へインセンティブ(奨励費)を支給した。

2 社会連携の推進、美術教育の普及、美術文化の振興

- (1) 11月に大学所在地である東京都小平市と包括連携協定を締結し、3月には埼玉県所沢市と文化芸術等における連携・協力に関する協定を締結した。



2018年11月2日、東京都小平市との包括協定締結式



2019年3月22日、埼玉県所沢市との文化芸術等における連携・協力に関する協定締結式

- (2) 8月に「MIDTOWN ♡ SUMMER 2018」、「東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2018」に参加し、本学企画として4つのワークショップを実施した。
- (3) 東京ミッドタウン・デザインハブ第76回企画展『企(たくらみ)』展 ちょっと先の社会をつくるデザイン』を11月に開催した。



2018年11月25日(日)～12月24日(月)に開催した企画展。ソーシャルデザインの「ちょっと先」に焦点をあて、地域社会・ビジネス・個人の暮らしに寄り添うデザインの新たなアプローチを提示した

- (4) 千代田区東神田のgallery αMにおいて、αMプロジェクト2018「絵と、」を年間5回の企画展として開催した。
- (5) 本学独自の活動として全国各地の学校や美術館で展開する「旅するムサビプロジェクト」や、小・中学生を対象とするワークショップ等に取り組んだ。
- (6) 本学社会連携活動の学内外周知のため、「アート＆デザインプロジェクト発表会2018：美大生の可能性」を開催した。
- (7) 調布市内・近隣大学等公開講座において、油絵学科の元田久治教授が「美大は日常が想像以上！」をテーマに講座を開講した。
- (8) 小学校・中学校(美術)・高等学校(美術、工芸)のうち、いずれかの免許状を有する現職教員などを対象とした免許状更新講習を実施した。
- (9) 昨年に引き続き、近隣の中学校2校より各2名の生徒を「職場体験」として受け入れた。

7. 広報・IR活動の強化

- (1) 新学部・新研究科に特化した媒体制作や広告出稿として、位置情報(特定の高校や大学に入退場している)を活用したバナー広告、競合一般大学と想定した模試受験者へのピンポイントDMの送付、webメールの送付等を行った。
-
- 新学科・新研究科開設のOOH広告。首都圏の進学校の最寄り駅を中心に出稿
- (2) 従来の造形学部志願者への説明会に加えて、新学科独自の説明・相談会を開催した。また新たな志願者層の開拓も念頭に高校訪問を強化した。
- (3) 授業や課題作品展示の様子など、本学の日常を中心に高校生向け情報を発信するTwitterアカウント「MAUs!」(マウス)を開設した。
- (4) 総合大学(早稲田・東海・東京都市・上智・中央)とのシンポジウム「大学の約束」に長澤学長がパネリストとして参加した。6月、8月のオープンキャンパスは、前年度より入場者が微増した。
- (5) 日本語学校、外資系予備校などへの積極的なガイダンス展開を行った。
- (6) IR活動の一環として、学校法人の概要、事業の概要、財務の概要とともに本学の教育・研究、国際交流、社会貢献等の取組みや施策の現状をわかりやすくまとめた冊子『MUSASHINO ART UNIVERSITY FACTBOOK』を昨年度に引き続き刊行した。

8. 組織力の強化

- (1) 労働関係諸法令の改正に対応し、教員組織、教員組織の弾力化を図るため、就業規則をはじめとした規則の見直し、改正を行った。
- (2) 職員の能力底上げを図るべく職員研修を行い、優秀な人材を採用するため、採用プロジェクトチームを編成して職員採用を行った。

9. その他の主な取組

1 教育研究関連の取組

- (1) 「ムサビの授業最前線—10年の後に—」をテーマに全学研修会を実施、3月に記録集を発行した。出席者は87名であった。
- (2) 前期研究集会「アクティブラーニングについて—教養文化の事例から—」(荒川歩准教授、関野吉晴教授)、後期研究集会「教育改革助成『地方滞在型制作(旅ムサステイ)の開発』の報告と今後の可能性」をそれぞれ実施した。
- (3) 聴覚障害を持つ学生に対するノートテイク支援を行った。
- (4) 国内外のアーティストやデザイナー、研究者等を招き、課外講座を計39回実施した(実施した講座及び講師の一覧については33ページ参照)。
- (5) 学生教育研究災害傷害保険(学研災)及び学生教育研究賠償責任保険(学研賠)への加入義務付けに加え、正課外の事故に対してより広範囲な補償が得られるよう、次年度新入生へ向け別途任意保険への加入を促した。
- (6) ポートフォリオ作成指導プログラムやエントリーシート対策講座などの各種ガイダンス(総合職講座、作家・クリエイターズ支援プログラム、OBOGトーク)を実施、就活プログラム全体を充実させた(22ページ参照)。
- (7) 年間100社を超える個別会社説明会のほか、合同企業説明会を複数回開催した。合同企業説明会には企業227社、学生937名が参加した。

2 國際化の推進

建築、芸術・人文科学、コミュニケーション、デザインの4学部を擁し、世界のクリエイティブ業界に才能を送り出し続けているロイヤル・カレッジ・オブ・アート(英国)と2018年7月に交流協定を締結した。

37校目の国際交流協定校

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)
2018年交流協定締結

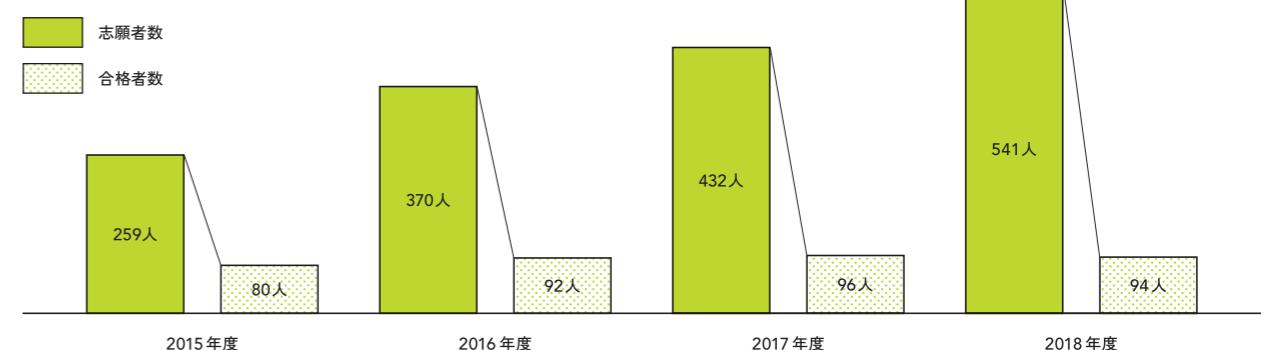
ロンドンの中心部ケンジントン、バッティー、ホワイト・シティにキャンパスを持つ、国立のアート・デザイン大学院。政府系のデザイン教育機関として1837年に創立され、1851年のロンドン万国博覧会を機にファインアートにも分野を拡張、ニュー・スカルプチュア、ポップ／オブ・アート、ヤング・ブリティッシュ・アーティストなど、歴史的なクリエイティブ運動に寄与するアーティスト、デザイナーを輩出してきた。現在は、建築、芸術・人文科学、コミュニケーション、デザインの4学部を擁し、世界のクリエイティブ業界に才能を送り出し続けている。国際的に活躍するアーティスト、デザイナー、理論家をアカデミック・スタッフとして起用し、対面式、プロジェクト・ベース学習を重視したプロフェッショナル指向の教育を展開している。



3 入学試験関連の取組

- (1) 従来の入試制度に加え、2019年度より開設する造形構想学部において、一般入学試験に「学部統一方式」を導入した。また、新設したクリエイティブノベーション学科では、「センター5教科方式」を設け新たな受験者層の開拓を試みた。
- (2) 一般入学試験の志願者は7,392名となり、前年比698名、10.4%の増加となった。(入試結果の詳細は15ページ参照)。
- (3) 外国人留学生特別入試の志願者は541名と、前年比109名、25.2%と大幅な増加となった。入試実施に当たっては、2日間を入構禁止として対応した。

過去4年間の外国人留学生特別入学試験結果



4 自己点検・評価の取組

第6期自己点検・評価委員会において「内部質保証」をテーマに、学修成果の検証、教員組織の適切性等について議論を行い、2018年度をもって任期満了となる第6期委員会としての報告書作成を開始するとともに、2019年度に大学基準協会に報告する内容について確認を行った。また、昨年度末に引き続き「改革合同会議」を開催し、本年度の様々な点検・評価項目と改善経過を総括し、次年度の活動方針を確認した。

内部質保証のためのPDCAサイクル [2019年度以降(2学部体制)]

2019年3月12日
改革合同会議



5 通信教育課程の取組

- (1) 2018年度の入学者数は、前年度に実施したwebサイトのリニューアルによる入学情報へのアクセシビリティの向上等により、4月募集が425名、10月募集が199名の合計624名となり、前年度比106名の増加(20.4%増)であった。
- (2) 募集活動として、体験授業を組み合わせた入学相談会を実施し、昨年度より相談会の来場者数が増加となった。
- (3) メディア授業科目である「レポート入門」及び「カメラリテラシー」を開講し、延べ650名の受講者があった。なお、2020年度以降の学科及びコース再編に向けて更なるメディア授業科目開設のための検討を実施した。
- (4) 2020年度より学生募集を開始する新課程のカリキュラム及び3ポリシー策定等の検討を実施した。

FINANCIAL SUMMARY

財務の概要

財務の概要

1. 経年比較

平成26年度の決算額は、平成27年度改正後の学校法人会計基準の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて表示している。

(1) 貸借対照表

科目	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	本年度末
固定資産	44,718,223	44,882,267	44,870,269	44,604,647	44,776,862
流動資産	5,545,828	5,941,974	6,142,162	6,722,290	6,777,903
資産の部合計	50,264,051	50,824,241	51,012,430	51,326,938	51,554,765
固定負債	1,790,149	1,865,177	1,934,811	2,074,043	2,152,965
流動負債	3,710,653	4,270,840	2,746,215	2,632,484	2,875,078
負債の部合計	5,500,803	6,136,017	4,681,026	4,706,527	5,028,042
基本金	44,953,920	47,791,473	48,417,380	48,536,210	49,117,752
繰越収支差額	△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975	△ 1,915,800	△ 2,591,029
純資産の部合計	44,763,248	44,688,224	46,331,404	46,620,411	46,526,722
負債及び純資産の部合計	50,264,051	50,824,241	51,012,430	51,326,938	51,554,765

収支計算書

(1) 資金収支計算書

科目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	本年度
収入の部	学生徒等納付金収入	8,135,840	8,149,357	8,145,023	8,202,496
	手数料収入	206,116	208,420	213,338	218,500
	寄付金収入	60,102	56,742	35,520	32,434
	補助金収入	789,641	835,490	906,075	686,547
	資産売却収入	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	88,545	112,972	128,804	104,377
	受取利息・配当金収入	106,083	49,334	11,760	9,033
	雑収入	89,321	101,621	1,658,925	275,332
	借入金等収入	0	0	0	0
	前受金収入	1,939,761	1,990,529	2,046,593	1,954,014
	その他の収入	357,558	3,183,865	380,116	485,683
	資金収入調整勘定	△ 2,060,993	△ 2,023,393	△ 3,366,513	△ 2,266,417
	前年度繰越支払資金	6,317,261	5,093,555	5,546,227	5,721,121
	収入の部合計	16,029,234	17,758,492	15,705,868	15,423,119
支出の部	人件費支出	4,604,853	4,566,612	4,588,248	4,634,938
	教育研究経費支出	2,492,314	2,912,212	2,532,089	2,457,283
	管理経費支出	780,628	758,699	910,995	731,183
	借入金等利息支出	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0
	施設関係支出	2,165,359	3,898,239	509,534	204,159
	設備関係支出	263,827	447,975	263,575	303,820
	資産運用支出	544,007	179,190	748,114	822,949
	その他の支出	645,123	538,470	1,061,540	633,497
	資金支出調整勘定	△ 560,432	△ 1,089,132	△ 629,348	△ 671,205
	翌年度繰越支払資金	5,093,555	5,546,227	5,721,121	6,306,497
	支出の部合計	16,029,234	17,758,492	15,705,868	15,423,119

FINANCIAL SUMMARY

(2) 事業活動収支計算書

科目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	本年度
教育活動 収支	学生徒等納付金	8,135,840	8,149,357	8,145,023	8,202,496
	手数料	206,116	208,420	213,338	218,500
	寄付金	60,102	56,742	36,674	32,811
	経常費等補助金	771,302	773,406	852,044	686,547
	付随事業収入	88,545	112,972	128,804	104,377
	雑収入	89,321	101,167	1,657,122	274,400
	教育活動収入計	9,351,226	9,402,064	11,033,004	9,519,131
	人件費	4,588,832	4,551,219	4,579,627	4,614,022
	教育研究経費	3,506,341	3,881,707	3,748,219	3,665,986
	管理経費	897,763	875,880	1,060,254	889,857
教育活動 支出	徴収不能額等	0	0	0	0
	教育活動支出計	8,992,936	9,308,806	9,388,099	9,169,865
	教育活動収支差額	358,289	93,257	1,644,905	349,266
	受取利息・配当金	106,083	49,334	11,760	9,033
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0
	教育活動外収入計	106,083	49,334	11,760	9,033
	借入金等利息	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	106,083	49,334	11,760	9,033
特別収支	経常収支差額	464,373	142,591	1,656,665	358,299
	資産売却差額	0	0	0	0
	その他の特別収入	40,517	99,618	82,433	17,812
	特別収入計	40,517	99,618	82,433	17,812
	資産処分差額	14,402	235,939	14,160	5,326
	その他の特別支出	81,000	81,294	81,758	89,678
	特別支出計	95,402	317,233	95,918	87,104
	特別収支差額	△ 54,885	△ 217,615	△ 13,485	△ 69,293
	基本金組入前当年度収支差額	409,487	△ 75,024	1,643,181	289,006
	基本金組入額合計	△ 2,009,758	△ 3,096,617	△ 644,907	△ 118,830
(参考)	当年度収支差額	△ 1,600,271	△ 3,171,641	998,274	170,176
	前年度繰越収支差額	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975
	基本金取崩額	227	259,063	19,000	0
	翌年度繰越収支差額	△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975	△ 1,915,800
	事業活動収入計	9,497,826	9,551,015	11,127,197	9,545,976
	事業活動支出計	9,088,338	9,626,039	9,484,017	9,256,969
		9,397,651			

2. 主な財務比率比較

事業活動収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、平成26年度の比率は、平成27年度改正後の学校法人会計基準の様式に基づき、区分及び科目を組み替えた金額で算出している。また、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系20法人の平成29年度の平均値を表したものである。ただし、新会計基準への組み替えにおいて、*経常収入は帰属収入、*経常支出は消費支出で算出している。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成30年度版による。)

(1) 事業活動収支計算書関係財務比率

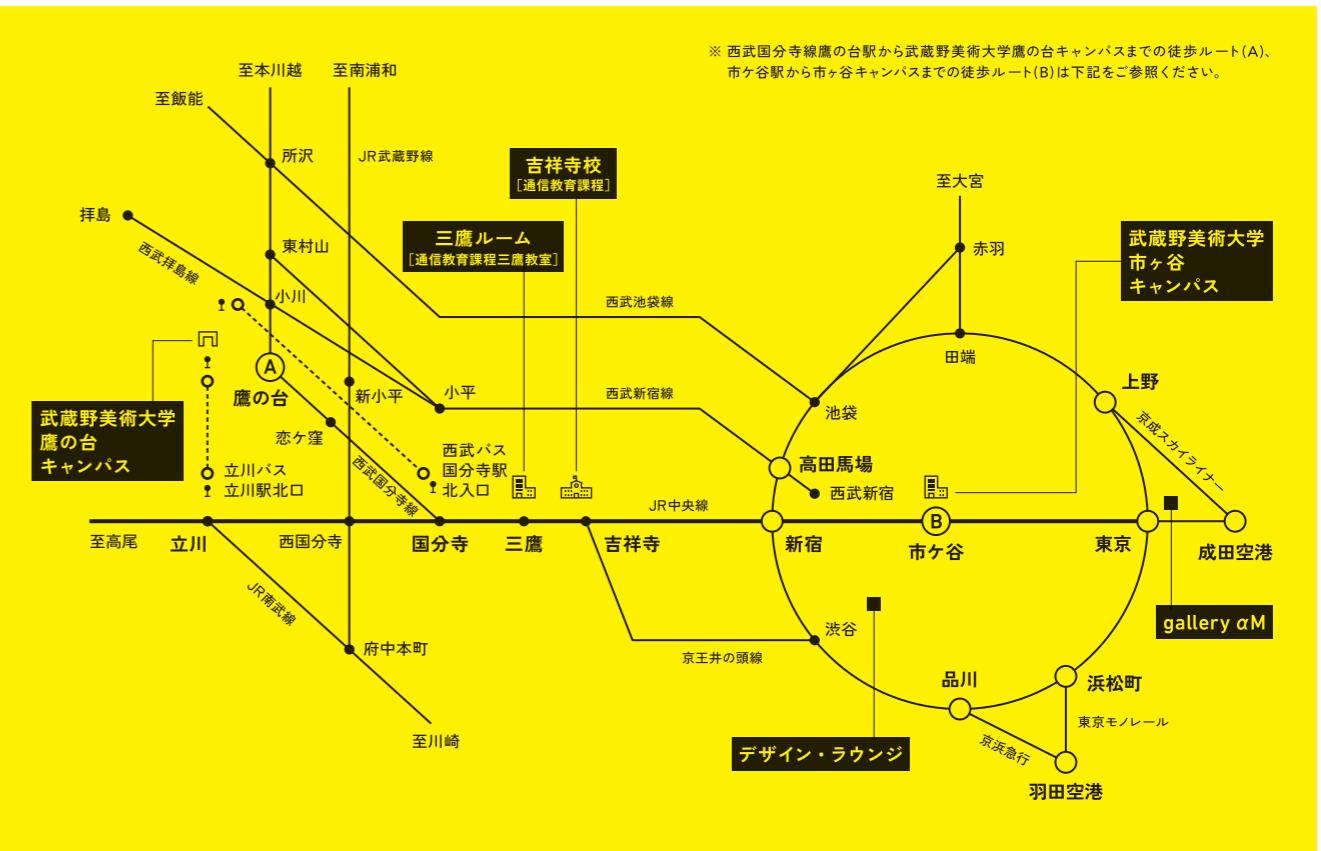
比率	算式 (×100)	評価	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	本年度末	芸術系学部平均
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入計	△	4.3%	△ 0.8%	14.8%	3.0%	△ 1.0%	△ 1.3%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 * 経常収入	~	86.0%	86.2%	73.7%	86.1%	88.0%	78.3%
寄付金比率	寄付金 事業活動収入計	△	0.9%	1.0%	0.3%	0.5%	0.5%	0.7%
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金 * 経常収入	△	0.6%	0.6%	0.3%	0.3%	0.5%	0.5%
補助金比率	補助金 事業活動収入計	△	8.3%	8.7%	8.1%	7.2%	6.3%	10.1%
経常補助金比率	教育活動収支の補助金 * 経常収入	△	8.2%	8.2%	7.7%	7.2%	6.3%	10.0%
人件費比率	人件費 * 経常収入	▼	48.5%	48.2%	41.5%	48.4%	47.1%	55.8%
教育研究経費比率	教育研究経費 * 経常収入	△	37.1%	41.1%	33.9%	38.5%	38.9%	34.1%
管理経費比率	管理経費 * 経常収入	▼	9.5%	9.3%	9.6%	9.3%	14.0%	11.6%
借入金等利息比率	借入金等利息 * 経常収入	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
基本金組入率	基本金組入額 事業活動収入計	△	21.2%	32.4%	5.8%	1.2%	6.3%	11.5%
減価償却額比率	減価償却額 * 経常支出	~	12.0%	11.2%	14.3%	15.0%	14.8%	13.3%
人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	▼	56.4%	55.8%	56.2%	56.3%	53.6%	71.2%
基本金組入後収支比率	事業活動収支 事業活動収入 - 基本金組入額	▼	121.4%	76.1%	90.5%	98.2%	107.7%	114.4%
経常収支差額比率	経常収支差額 * 経常収入	△	4.9%	1.5%	15.0%	3.8%	△ 0.1%	△ 1.7%
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 教育活動収入計	△	3.8%	1.0%	14.9%	3.7%	△ 0.8%	△ 6.3%

(2) 貸借対照表関係財務比率

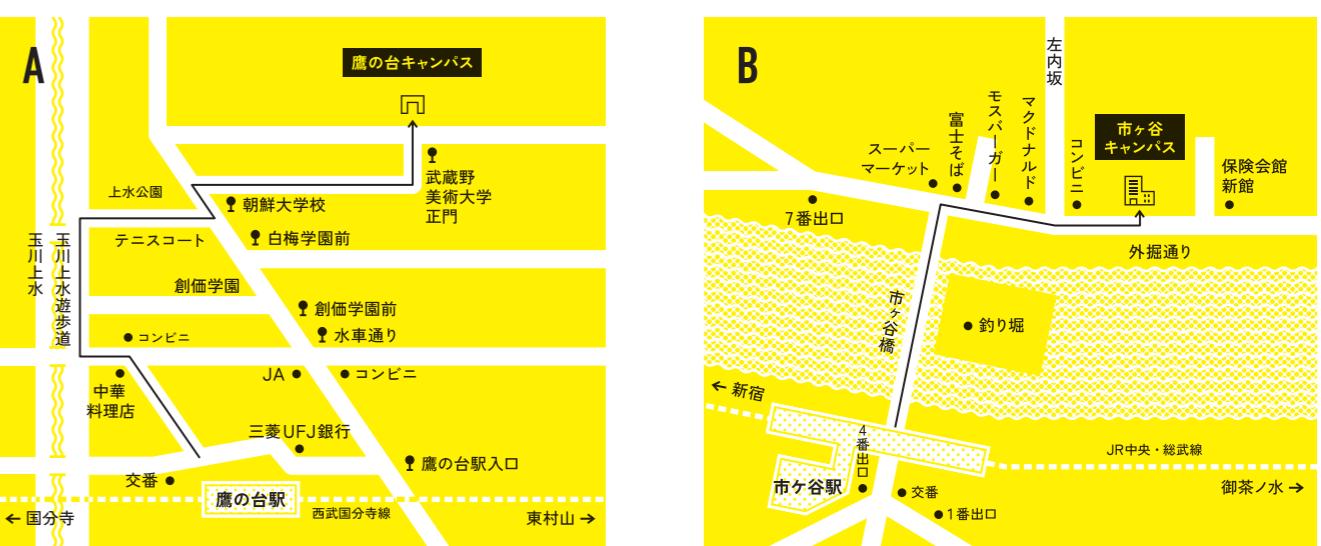
比率	算式 (×100)	評価	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	本年度末	芸術系学部平均
純資産構成比率	純資産 負債 + 純資産	△	89.1%	87.9%	90.8%	90.8%	90.2%	89.3%
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 負債 + 純資産	△	△ 0.4%	△ 6.1%	△ 4.1%	△ 3.7%	△ 5.0%	△ 11.3%
固定比率	固定資産 純資産	▼	99.9%	100.4%	96.8%	95.7%	96.2%	97.5%
固定長期適合率	固定資産 純資産 + 固定負債	▼	96.1%	96.4%	93.0%	91.6%	92.0%	91.4%
固定資産構成比率	固定資産 総資産	▼	89.0%	88.3%	88.0%	86.9%	86.9%	87.1%
有形固定資産構成比率	有形固定資産 総資産	▼	55.6%	61.0%	59.7%	57.7%	56.5%	58.5%
特定資産構成比率	特定資産 総資産	△	21.1%	21.1%	28.0%	29.0%	30.2%	19.0%
流動資産構成比率	流動資産 総資産	△	11.0%	11.7%	12.0%	13.1%	13.1%	12.9%
流動比率	流動資産 流動負債	△	149.5%	139.1%	223.7%	255.4%	235.7%	272.7%
退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産 退職給与引当金	△	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	73.6%
固定負債構成比率	固定負債 負債 + 純資産	▼	3.6%	3.7%	3.8%	4.0%	4.2%	5.9%
流動負債構成比率	流動負債 負債 + 純資産	▼	7.4%	8.4%	5.4%	5.1%	5.6%	4.7%
総負債比率	総負債 総資産	▼	10.9%	12.1%	9.2%	9.2%	9.8%	10.7%
負債比率	純負債 純資産	▼	12.3%	13.7%	10.1%	10.1%	10.8%	11.9%
積立率	運用資産 要積立額	△	119.9%	105.8%	103.9%	104.0%	102.1%	86.3%

〔評価〕 △高い値が良い ▽低い値が良い ~どちらともいえない
 運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券
 要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 2号基本金 + 3号基本金

路線図



最寄り駅からのアクセス(鷹の台・市ヶ谷キャンパス)



西武国分寺線「鷹の台」駅下車 徒歩18分 ◎JR中央線から「国分寺」駅乗換、「東村山」行(2駅目) ◎西武新宿線から「東村山」駅乗換、「国分寺」行(2駅目)

鷹の台キャンパスへのバスルート
 JR中央線「国分寺」「立川」駅から路線バスも運行されています。
 ◎JR中央線「国分寺」駅北口から西武バス「武蔵野美術大学」行または「小平営業所」行で約20分(「国分寺駅北入口」停留所→「武蔵野美術大学正門」停留所下車)
 ◎JR中央線「立川」駅北口から立川バス「武蔵野美術大学」行で約25分(「立川駅北口」5番乗り場→「武蔵野美術大学」停留所下車)



学校法人武蔵野美術大学 2018年度ファクトブック

発行 学校法人武蔵野美術大学
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

発行日 2019年7月1日

企画・編集 武蔵野美術大学 大学企画グループ広報チーム
TEL: 042-342-6038

制作

アートディレクション 平林奈緒美
デザイン 星野久美子
編集・ライティング 成田敏史

印刷 Butter Inc.

大学全体の活動や最新の情報については、大学webサイトをご参照ください。
<https://www.musabi.ac.jp>

本冊子の図版および文章の無断転載を禁ずる。
Copyright © 2019 Musashino Art University
All Rights Reserved.

(2018)

MAU FACTBOOK

MUSASHINO ART UNIVERSITY

Since the earliest days of Musashino Art University, our mission has been to train professionals equipped with a good general education and of superlative character for careers in various fields of the formative arts, focusing primarily on the realms of fine arts and design. To achieve this, the University is deeply mindful of the need to arm students with a combination of generalist and specialist skills, and remain faithful to our founding spirit of providing art education that allows students to function with true freedom as human beings, and producing artists of well-rounded erudition.

No part of this book may be reproduced in any manner or transmitted by any means whatsoever, electronic or mechanical (including photocopy, recording, internet posting, or any other information storage and retrieval system) without the prior written permission of the publisher.

July 2019 Printed in Tokyo, Japan

<https://www.musabi.ac.jp>

W 210mm H 297mm format / 56 pages